

平成23年度版 飛騨・美濃じまん白書



平成22年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について

# 目次

P

## 第1章 岐阜県の観光の現状と課題

- |   |  |   |
|---|--|---|
| 1 | 本県の観光の現状<br>～平成22年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果～ | 1 |
| 2 | 飛騨・美濃じまん運動実施計画に掲げる目標の進捗状況と今後の課題        | 7 |

## 第2章 「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組（6つのプロジェクト別）

- |   |                      |    |
|---|----------------------|----|
| 1 | 岐阜の宝もの認定プロジェクト       | 12 |
| 2 | 飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクト   | 19 |
| 3 | 飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト   | 25 |
| 4 | 県産品ブランド力向上プロジェクト     | 32 |
| 5 | まちづくり支援・移住定住推進プロジェクト | 44 |
| 6 | 「ふるさとの誇り」づくりプロジェクト   | 52 |

## 参考資料

- |   |                              |    |
|---|------------------------------|----|
| ・ | 平成22年度の飛騨・美濃じまん運動の推進に向けた検討状況 | 55 |
| ・ | みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例          | 57 |

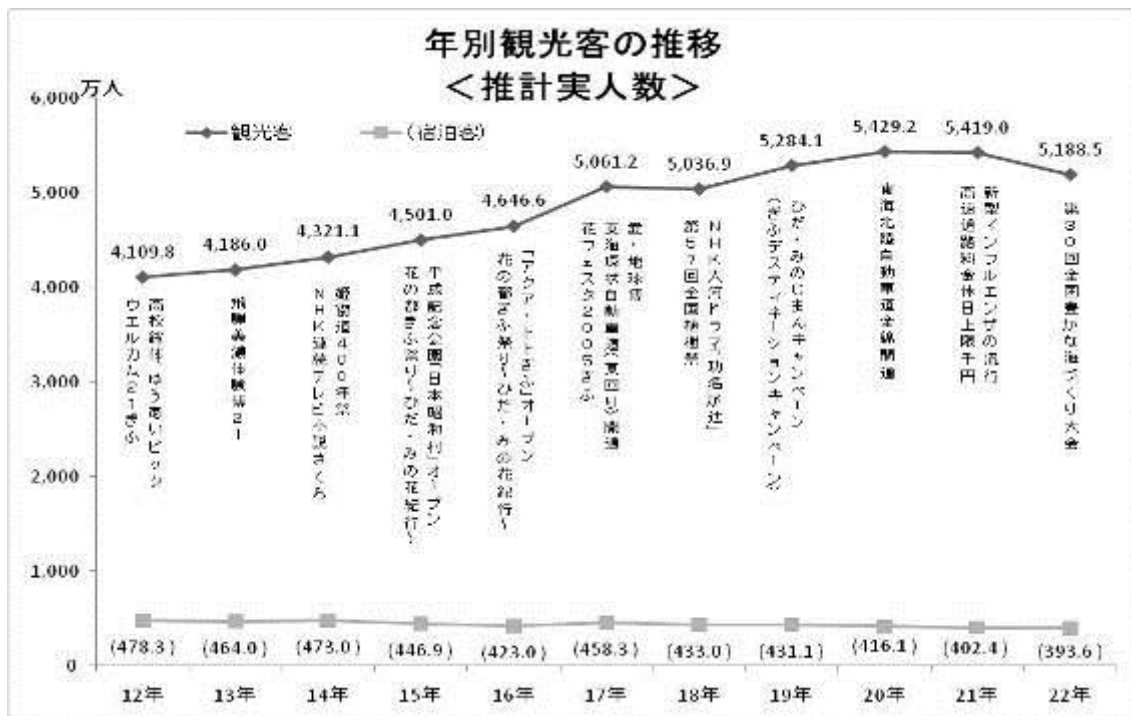
# 1

## 岐阜県の観光の現状と課題

### 1 本県の観光の現状 ～平成22年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果～

#### (1) 観光入り込み客数

平成22年の観光入り込み客数は、前年と比較して、日帰り客数が減少（前年比▲4.4%）、宿泊客数も減少（前年比▲2.2%）し、全体では前年比▲4.3%の5,188万5千人となった。〔図1〕



〔出展〕「平成22年岐阜県観光レクリエーション動態調査」

※) 推計実人数：同じ観光客が県内の複数の観光地点を訪れたり、2泊以上宿泊したとしても、実際の観光客数は一人であることから、延べ観光客数からパラメータを用いて実人数を推計する。

長引く景気低迷や円高の影響などの経済情勢、7月の災害をもたらした記録的豪雨、酷暑や雷雨など、県内の観光を取り巻く環境は厳しい状況にあったため、全体として減少した。一方で、こうした影響がある中、アジアを中心とした海外プロモーション活動など各種誘客事業を実施した効果などにより、外国人の延べ宿泊客数は、前年に比べ9.3%増となった。その結果、県内の観光客数を日帰り・宿泊別に見ると、日帰り客数が前年比4.4%減少であるのに対し、宿泊客数は2.2%の減少にとどまった。



集客数の県内トップは、前年に引き続き土岐プレミアム・アウトレットの447万人となった。[表1]

[表1] 観光地点別入り込み客数順位(ベスト10)

順位	観光地点名	観光客数 (万人)	前年 順位
1	土岐プレミアム・アウトレット	447.0	(1)-
2	河川環境楽園(アクアト含む)	402.4	(2)-
3	高山地域	244.8	(3)-
4	千代保稲荷神社	202.4	(4)-
5	千本松原・国営木曾三川公園	166.7	(5)-
6	伊奈波神社	152.1	(8)↑
7	白川郷合掌造り集落	149.3	(7)-
8	世界イベント村ぎふ	145.0	(6)↓
9	下呂温泉	118.3	(9)-
10	岐阜公園	85.9	(11)↑

出展)「平成22年岐阜県観光レクリエーション動態調査」

## (2) 観光客の内訳

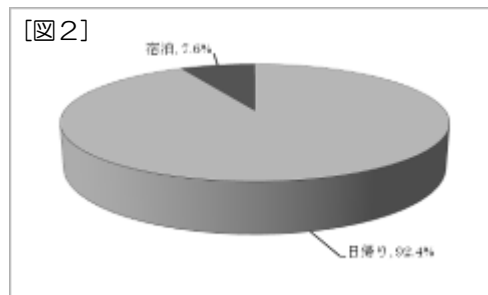
### ①日帰り・宿泊別観光客数

平成22年の観光客数は5,188万5千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は4,794万9千人、宿泊客は393万6千人と、依然として日帰り客が多いものの、宿泊客の占める割合は前年より0.2ポイント増加した。

[図2]

圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く(構成比98.2%)、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客69.5%、宿泊客30.5%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客393万6千人のうち207万1千人と全体の52.6%を占めた。



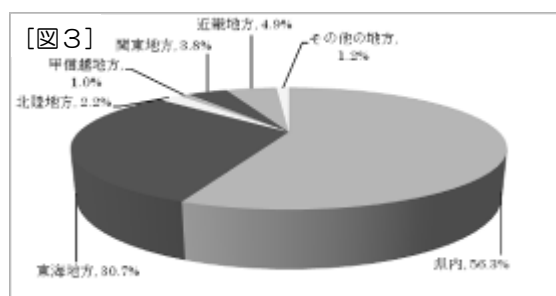
### ②居住地別観光客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は2,921万人(構成比56.3%)、県外客は2,267万5千人(構成比43.7%)と、県内客が多くを占めたが、飛騨圏域では県外客の割合が67.5%と高い。

県全体では、県外客のうち70.4%が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。

また、東海地方からの観光客の割合が特に高いのは、西濃圏域及び東濃圏域である。

[図3]

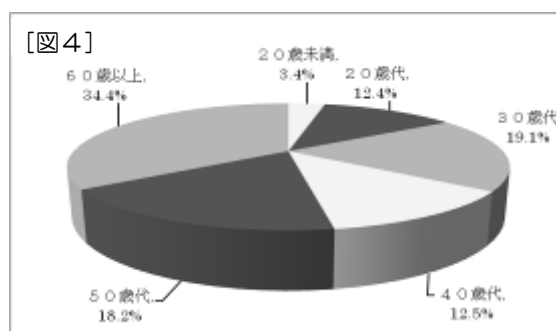


### ③男女別・年齢別観光客数

男女別で見ると、男性が2,410万人(構成比46.5%)、女性は2,778万3千人(構成比53.5%)と女性が上回り、前年と構成比は変わらなかった。

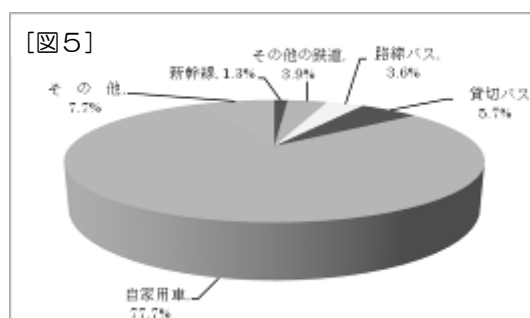
年齢別では、60歳以上が34.4%と最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている。

[図4]



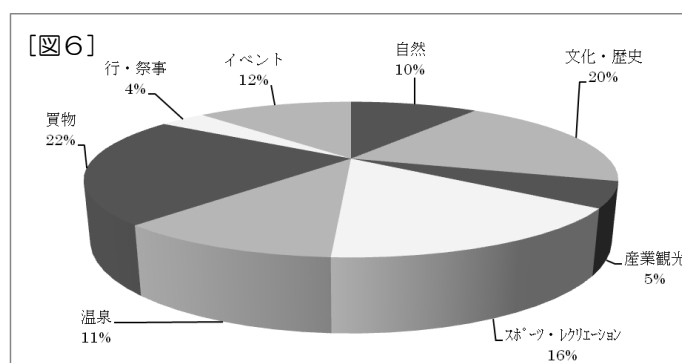
### ④利用交通機関別観光客数

利用交通機関別に見ると、前年に引き続き自家用車が最も多く全体の77.7%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は引き続き低い。[図5]



### ⑤観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「買物」の割合が昨年より増加し全体の22.5%を占めている。以下、「文化・歴史」、「スポーツ・レクリエーション」、「イベント」、「温泉」、「自然」、「産業観光」、「行・祭事」と続く。



圏域別で見ると、岐阜圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域は「買物」や「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域は「買物」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い。[図6]

## (3) 各圏域の動向

### ①岐阜圏域

- ・観光客数は1,208万5千人で、前年と比べて35万7千人の減少(対前年比▲2.9%)となった。このうち、日帰り客数は1,140万2千人となり、前年に比べ30万5千人減少(対前年比▲2.9%)し、宿泊客数も68万4千人と5万2千人減少(対前年比▲7.1%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、改修工事に伴い一部施設閉

鎖の時期があった「世界イベント村ぎふ」や、酷暑や雷雨など天候が影響した「河川環境楽園」や「日本ライン夏まつり納涼花火大会」において減少した一方、三が日の天候に恵まれた「伊奈波神社」や、開催日の天候に恵まれた「長良川花火大会」等の主要観光地点において増加した結果、圏域全体として微減にとどまったと考えられる。

## ②西濃圏域

- ・観光客数は1,124万人で、前年と比べて83万6千人の減少（対前年比▲6.9%）となった。このうち、日帰り客数は1,103万9千人となり、前年に比べ83万9千人減少（対前年比▲7.1%）した一方、宿泊客数は20万2千人と3千人増加（対前年比+1.3%）した。
- ・観光地点別の入込客数（延べ人数）についてみると、災害復旧工事の終了した「大津谷公園」や、「関ヶ原合戦410年祭」が開催された「ふれあい21」で増加した一方、開催期間中天候に恵まれなかった「チューリップ祭」や、1月の雪や4月の雨、8～9月の酷暑など例年観光客の多い時期の悪天候が影響した「千本松原・国営木曾三川公園」で減少した結果、圏域全体としても減少したものと考えられる。

## ③中濃圏域

- ・観光客数は985万3千人で、前年と比べて50万1千人の減少（対前年比▲4.8%）となった。このうち、日帰り客数は936万2千人となり、前年に比べ49万5千人減少（対前年比▲5.0%）し、宿泊客数も49万人と6千人減少（対前年比▲1.2%）した。
- ・観光地点別の入込客数（延べ人数）についてみると、22年9月にオープンした「道の駅可児ッテ」、4月にオープンした「半布里（はにゅうり）の郷とみか道の駅」が好調である一方、前年は7年に1度の御開帳が開催されたことによる増加の反動があった「関善光寺」や、降雨や猛暑の影響があった「平成記念公園日本昭和村」で減少した結果、圏域全体でも減少したと考えられる。

## ④東濃圏域

- ・観光客数は1,191万3千人で、前年と比べて20万6千人の減少（対前年比▲1.7%）となった。このうち、日帰り客数は1,142万4千人と、前年に比べ20万5千人減少（対前年比▲1.8%）し、宿泊客数も49万人と1千人減少（対前年比▲0.2%）した。
- ・観光地点別の入込客数（延べ人数）についてみると、改修工事の影響により「虎溪山永保寺」で減少した一方、高速道路休日千円やテレビでの紹介の影響で増加した「道の駅志野・織部」や、施設の増設により増加し前年に引き続き集客数県

内トップとなった「土岐プレミアム・アウトレット」で増加し、圏域全体では微減にとどまったと考えられる。

#### ⑤飛騨圏域

- ・観光客数は679万3千人で、前年と比べて40万4千人の減少(対前年比▲5.6%)となった。このうち、日帰り客数は472万3千人と、前年に比べ37万3千人減少(対前年比▲7.3%)し、宿泊客数も207万1千人と3万1千人減少(対前年比▲1.5%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、ゴールデンウィーク中に桜が開花した「荘川桜」や春祭が天候に恵まれた「高山祭」で増加したものの、節約志向に伴う国内消費の低迷の影響を受けた「高山地域」や、東海北陸自動車道前線開通の落ち着きにより減少した「白川郷合掌造り集落」など、主要観光地点において減少した結果、圏域全体で減少したものと考えられる。

[表2] <観光客実人数(推計)> (単位:万人、%)

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	1,140.2	68.4	1,208.5	▲2.9
西濃圏域	1,103.9	20.2	1,124.0	▲6.9
中濃圏域	936.2	49.0	985.3	▲4.8
東濃圏域	1,142.4	49.0	1,191.3	▲1.7
飛騨圏域	472.3	207.1	679.3	▲5.6
合計	4,794.9	393.6	5,188.5	▲4.3

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

#### (4) 外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数は24万9千人で、インフルエンザの影響を受けた前年と比べて2万人の増加(対前年比+9.3%)となった。継続的な海外プロモーションの成果により過去最高を記録した平成20年には及ばなかったが、過去2番目の高水準となった。

[表3] <外国人延べ宿泊客数の年別推移> (単位:人)

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
岐阜圏域	35,340	40,047	41,444	34,615	40,442
西濃圏域	23,194	22,177	23,469	17,685	32,165
中濃圏域	4,974	5,309	9,775	6,123	6,507
東濃圏域	1,736	2,183	4,599	3,544	4,985
飛騨圏域	122,453	151,257	188,647	165,969	165,075
県計	187,697	220,973	267,934	227,936	249,174

※1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所まで宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える

#### (5) 観光消費額

平成22年の観光消費額の総額は2,712億65百万円(対前年比▲3.9%)で、うち日帰り客分は1,805億69百万円(対前年比▲4.7%)、宿泊客分は906億96百万円(対前年比▲2.2%)であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,766円(対前年比▲0.3%)、宿泊客は23,042円(対前年比▲0.0%)であった。

宿泊客数が減少し、さらに宿泊客一人当たりの平均消費額も減少したことが、全体の観光消費額の減少につながったと考えられる。

#### (6) 経済波及効果(推計)

平成22年の生産誘発額は4,125億4百万円、就業誘発効果は39,990人となった。



## 2 飛騨・美濃じまん運動実施計画に掲げる目標の達成状況と今後の課題

「飛騨・美濃じまん運動実施計画」（平成20年3月策定）においては、「観光王国飛騨・美濃の実現」を目指すため、次の5つの目標を設定している。

「観光王国飛騨・美濃の実現」を目指すための5つの目標（飛騨・美濃じまん運動実施計画）

観光客数（実人数推計）	5,037万人(H18)	→ 20%増	6,000万人(H24)
宿泊数（実人数推計）	433万人(H18)	→ 20%増	520万人(H24)
観光消費額	2,810億円(H18)	→ 20%増	3,400億円(H24)
外国人宿泊数（延べ人数）	18.8万人(H18)	→ 40%増	26.0万人(H24)
観光に行ってみたい県	34位(H17)	→	20位以内(H24)

※「観光客数」、「宿泊数」、「観光消費額」、「外国人宿泊数」については、毎年実施している岐阜県観光レクリエーション動態調査の数値。「観光に行ってみたい県」順位は平成17年度に実施した「岐阜県地域ブランド調査」の結果。

### （1）目標の達成状況

#### ① 観光客数 ～平成20年をピークに減少しており厳しい状況～

平成24年までに、観光客数を6,000万人（岐阜県観光レクリエーション動態調査ベース。以下、特に記述の無い限り同じ。）にするという目標を達成するためには、平成19年以降、毎年前年比3.0%の増加が必要となる。

その場合の、平成22年の目標観光客数は5,669万人となるが、平成22年の実績は5,189万人であり、目標水準を下回っている。

前年比で見ると4.3%減と減少しており、現在の観光客数の水準から目標を達成していくためには、平成23年以降、毎年7.5%増加が必要となり、一層の各種誘客事業の実施が必要である。

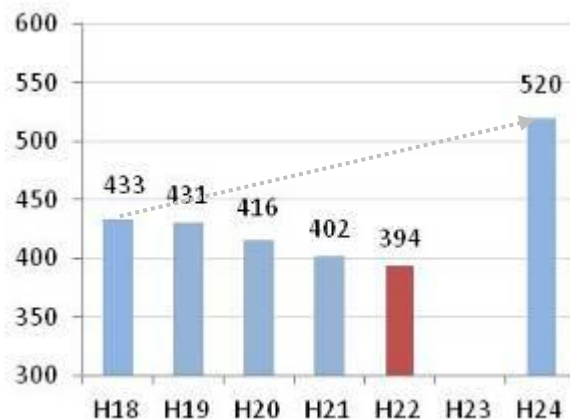


## ② 宿泊客数 ～減少傾向が続いており目標達成に向けて厳しい状況～

平成24年までに、宿泊客数を520万人（年平均3.0%増）にするという目標を設定しているが、一人当たりの宿泊旅行回数（観光・レクリエーション旅行）が全国的に減少傾向（年平均4.0%減）にあり、本県の宿泊客数も平成17年以降連続して減少。平成22年は前年比2.2%減の394万人となった。

現在の宿泊数の水準から、目標を達成していくためには、今後、毎年前年比15%増を達成することが必要となり大変厳しい状況にあるといえる。

（万人） 宿泊数の目標と現状

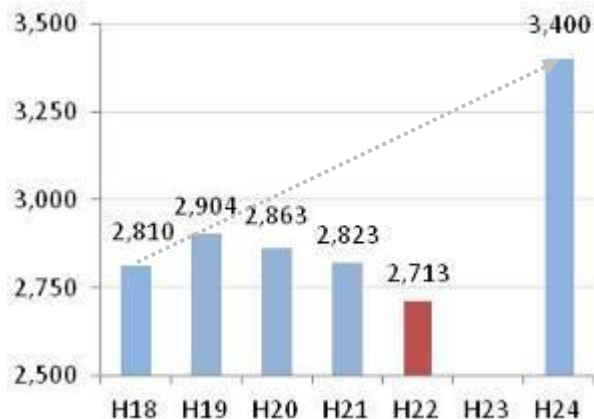


## ③ 観光消費額 ～宿泊客の消費額が減少し、全体でもやや減少～

平成24年までに観光消費額を3,400億円にするという目標に対し、平成22年は前年比3.9%減の2,713億円と、平成18年より低い水準にまで落ち込んだ。

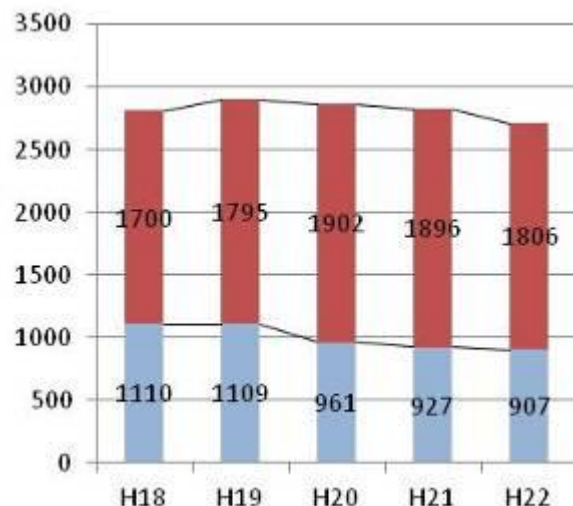
目標を達成するためには、今後、毎年前年比12%増を達成することが必要となり大変厳しい状況にあるといえる。

（億円） 観光消費額の目標と現状



過去3年間の観光消費額を日帰り・宿泊別で見ると、日帰り客の消費額が、平成18年の1,700億円に対し、平成22年は1,806億円と伸びているのに対し、宿泊客の消費額は平成18年が1,110億円に対し平成22年は907億円と大幅に減少している。

(2)で示したように、宿泊客そのものが減少していることが、消費額の減少要因となっているが、加えて、宿泊客一人当たりの消費額が平成18年の25,642円から平成22年には23,042円と、10.1%減少していることも、全体の消費額減少の要因となっている。

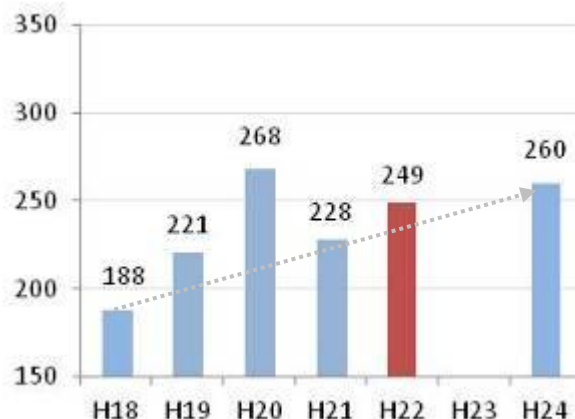


#### ④ 外国人宿泊数 ～目標を上回る水準で順調に推移する～

平成24年までに、外国人宿泊数(延べ)を26万人にするという目標に対し、平成21年に一度は減少したものの、平成22年は、24万9千人と前年比9.3%増加し、目標に向けて順調に推移している。

国全体においても同様の傾向がみられ、日本政府観光局(JNTO)の訪日外国人旅行者数(推計値)も前年比26.8%増と増加しており、韓国・中国などアジアからの観光客が増加したことなどが影響したと考えられる。

(千人) 外国人宿泊数の目標と現状



## ⑤ 観光に行ってみたい県

「観光に行ってみたい県」順位を、34位から20位以内を目指すこととしているが、(株)ブランド総合研究所が実施している「地域ブランド調査2011」(※)によれば、本県の「観光意欲度都道府県ランキング」は36位と昨年の32位から若干下がった。

一方、同調査で併せて調査している「認知度ランキング」(32位→24位)、「情報接触度」(39位→31位)、「魅力度ランキング」(39位→35位)、「産品購入意欲度ランキング」(42位→38位)は昨年から上昇しており、本県が大都市圏を中心に展開しているプロモーション等が着実に浸透している事が伺える。

今後も、観光の「魅力」そのものを磨き上げることはもちろんのこと、観光・食・モノを一体化したプロモーションを効果的かつ積極的に展開し、磨き上げられた本県の「魅力」の認知、さらには観光意欲の向上につなげていくことが重要である。

また、国の宿泊旅行統計調査において宿泊者数が上位にランクされている都道府県の多くは、「地域ブランド調査2011」のこれら5項目においても上位にランクインされている(※※)ことから、宿泊者増加対策の観点からも、本県の魅力をいかに発信し、認知してもらおうか、戦略的な取組が必要と考えられる。

※「観光に行ってみたい県」順位は、平成17年度に本県が「岐阜県ブランド戦略」を策定するための基礎資料として、(株)ブランド総合研究所に委託して実施した「岐阜県地域ブランド調査」の結果によるものであるが、「岐阜県地域ブランド調査」については、それ以降実施していないため、同社が実施している「地域ブランド調査」における「観光意欲度都道府県ランキング」を参考指標とする。

※※宿泊者統計上位15位までの都道府県中

地域ブランド調査の5項目(「観光意欲度」「魅力度」「認知度」「情報接触度」「産品購入意欲度」)で

- ・5項目すべてが15位までにランクインした都道府県数：3
- ・4項目が15位までにランクインした都道府県数：4
- ・3項目が15位までにランクインした都道府県数：2
- ・2項目が15位までにランクインした都道府県数：3
- ・1項目が15位までにランクインした都道府県数：2

「地域ブランド調査2011」各項目順位と、宿泊旅行統計調査における宿泊数順位の比較

	宿泊旅行統計調査 (観光庁)		地域ブランド調査2011 <観光関連5項目> (株式会社ブランド総合研究所)					
	宿泊者数		魅力度	認知度	観光意欲度	情報接触度	産品購入意欲度	
1	東京都	41,912	北海道	東京都	北海道	東京都	北海道	
2	北海道	23,284	京都府	北海道	京都府	福島県	沖縄県	
3	大阪府	19,620	沖縄県	大阪府	沖縄県	宮城県	秋田県	
4	千葉県	18,358	東京都	京都府	奈良県	岩手県	静岡県	
5	静岡県	15,631	奈良県	神奈川県	東京都	大阪府	京都府	
6	神奈川県	13,979	神奈川県	奈良県	長崎県	北海道	大阪府	
7	沖縄県	12,739	大阪府	千葉県	長野県	千葉県	広島県	
8	京都府	11,986	長野県	兵庫県	福岡県	京都府	山梨府	
9	長野県	11,925	兵庫県	愛知県	兵庫県	沖縄県	宮城県	
10	福岡県	11,727	福岡県	福岡県	石川県	神奈川県	福岡県	
26	岐阜県	4,337	35 岐阜県	24 岐阜県	36 岐阜県	31 岐阜県	38 岐阜県	
算 出 手 法 等	有効回収数 30,537人(20代~60代消費者を対象)に対するインターネット調査							
	以下の対象に対し調査を実施。延べ人数集計。 ■1~3月調査までは従業員数10人以上のホテル、旅館、簡易宿所 ■4月~は「従業員数10人以上」：全数調査、「従業員数5~9人」：1/3無作為抽出したサンプル調査、「従業員数0~4人」：1/9を無作為抽出したサンプル調査	問：「どの程度魅力を感じますか」？ 算出式：100点×「とても魅力的」回答者割合+50点×「やや魅力的」回答者割合	問：「どの程度ご存じですか」 算出式：100点×「よく知っている」回答者割合+75点×「知っている」回答者割合+50点×「少しだけ知っている」回答者+25点×「名前だけ知っている」回答者割合	問：「今後、観光や旅行に行きたいと思いませんか」 算出式：100点×「ぜひ行ってみたい」回答者割合+50点×「機会があったら行ってみたい」回答者割合	問：「過去1年間に、情報、話題などを見たり聞いたりしたことがありますか」 算出式：100点×「何度も見聞きした」回答者割合+50点×「見聞きしたことがある」回答者割合	問：「それぞれの地域で、あなたが購入したいものがあれば、具体的な産品名をお書き下さい」(食品、食品以外の産品各3品まで) 算出式：(食品+食品以外産品記入数)/サンプル数×100		

(2) 目標の達成に向けた今後の課題

目標の達成状況をみると、観光客数は目標水準に近づいているものの、宿泊客数は減少傾向にあり、それに伴い観光消費額も伸び悩んでいることから、いかに宿泊客を増加させるかが課題である。

宿泊客増加対策として、まずは岐阜県に泊ってみたいと思われる動機付けの強化のため、観光資源(観光・食・モノ)をつなぎ、自然・健康・癒しなどをテーマとした岐阜の魅力満喫できる新たな旅のスタイルを創出し、岐阜県ブランドとしてその魅力を効果的に発信しイメージアップに繋げることが必要である。



## 2

# 「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組 (6つのプロジェクト別)

## 1 岐阜の宝もの認定プロジェクト

### ■岐阜の宝もの認定事業の展開

飛騨・美濃じまん運動を具体的に推進するため、県民一人ひとりが考えるふるさとのじまを、全国に通用する観光資源として磨きをかけ、「岐阜の宝もの」として情報発信する岐阜の宝もの認定事業に取り組んでいる。

観光資源の掘り起こしを県民参加で進めるため、一人ひとりが感じる岐阜県のじまを過去2回にわたって募集し、延べ1,811件の応募をいただいた。寄せられた多くの“じま”は、県内5地域での議論や、まちづくりやマーケティングなどの専門家による審査を経て、今後の岐阜県観光の振興につながる地域資源として、これまでに2回の選定を行い、44件の「じまの原石」が掘り起こされた。

さらにその中から、今後の魅力向上に向けた取組によっては全国に通用する観光資源になることが期待できる「岐阜の宝もの」として、平成20年度に「小坂の滝めぐり」を、平成21年度に「乗鞍山麓五色ヶ原の森」「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」を認定、それに次ぐ「明日の宝もの」として、平成20年度に「中山道」「川原町界限」「郡上鮎」「八百津のおやつ」を、平成21年度に「美濃白川四季彩街道」「天生県立自然公園と三湿原回廊」を認定し、魅力向上の取組を支援したほか、観光キャンペーンなどでPRしたことで多くの人が訪れるようになっていく。



小坂の滝めぐり  
(下呂市)



東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋  
(瑞浪市、恵那市、中津川市)



乗鞍山麓 五色ヶ原の森  
(高山市)

平成22年度には、過去2回の募集で寄せられた多くのじまんを、飛騨・美濃じまん地域会議において再検証し、その後の取組により魅力が向上した11件と、新たに地域会議によって掘りおこされた8件の計19件の新たな「じまんの原石候補」が推薦された。この19件について、2月19日（土）、県民文化ホール未来会館で開催した「第4回飛騨・美濃じまんミーティング～じまんの原石発表式～」において、地域の代表者によるプレゼンテーションが行われ、「岐阜の宝もの」認定委員会の審査を経て、12件の新たな「じまんの原石」が選定された。



#### [平成22年度「じまんの原石」選定の流れ]

- ①飛騨・美濃じまん地域会議から「じまんの原石」候補として19件を推薦（9～11月）
- ②「岐阜の宝もの」認定委員会認定専門委員による書類審査でプレゼン審査対象19件を決定（12月）
- ③認定専門委員による現地調査（1～2月）
- ④第4回飛騨・美濃じまんミーティングで地域代表によるプレゼンテーションと「岐阜の宝もの」認定委員会を開催し、「じまんの原石」12件を選定・発表（2月19日）

#### 【参考：じまんの原石】

[平成23年2月選定：12件]

岐阜城パノラマ夜景（岐阜市）、名水わさび（大垣市）、中山道・美濃路の追分「垂井宿」（垂井町）、池田山（池田町）、長良川鉄道（郡上市、美濃市、関市、富加町、美濃加茂市）、飛騨美濃せせらぎ街道（高山市、郡上市）、こころのふるさと虎溪山（多治見市）、清流付知峡で自然浴（中津川市）、桜堂薬師（瑞浪市）、笠置山クライミングエリア（恵那市）、串原の布ぞうり（恵那市）、明知鉄道（恵那市、中津川市）

[平成21年8月選定：17件]

養老鉄道（大垣市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町）、刃物ミュージアム回廊（関市）、笠原のタイル（多治見市）、美濃焼窯場めぐり（多治見市、土岐市）、羽

島市歴史民俗資料館・羽島市映画資料館（羽島市）、中山道4宿（岐阜市、各務原市、瑞穂市）、中山道と太田宿、御嶽宿、伏見宿（美濃加茂市、御嵩町、可児市、坂祝町）、東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋（瑞穂市、恵那市、中津川市）、東山寺町と文化財めぐり（高山市）、乗鞍山麓五色ヶ原の森（高山市）、天生県立自然公園（飛騨市）、まちなみ名物つるむらさきうどん（関市）、山岡細寒天及び恵那山麓寒天豚（恵那市）、大垣の湧水・地下水（大垣市）、住吉燈台・船町港・赤坂港（大垣市）、水まんじゅう（大垣市）、水屋群などの風景と輪中文化（大垣市）

[平成20年3月選定：27件]

川原町界限（岐阜市）、美濃竹鼻まつり・ふじまつり（羽島市）、各務原キムチで都市おこし（各務原市）、伊自良連柿・富有柿・おふくろ柿（山県市、瑞穂市、本巣市）、木曽川凧揚げ大会と木曽川エリア（笠松町、岐南町）、ベーめん（海津市）、谷汲門前町（揖斐川町）、中山道赤坂宿・木柁（大垣市）、「おちょぼさん」門前町（海津市）、徳山ダム（揖斐川町）、薬草（揖斐川町）、郡上鮎（郡上市）、食品サンプル（郡上市）、神と仏の里いとしろ（郡上市）、八百津のおやつ（八百津町）、四季彩街道（白川町）、美濃焼と日本酒の融合「美濃陶酔」（多治見市）、土岐市の窯元めぐり（土岐市）、中津川の栗きんとん（中津川市）、岩村城址と岩村城下町・温故知新 大正100年への誘い（恵那市）、馬籠宿・中山道（中津川市、恵那市、瑞浪市）、ふるさと体験飛騨高山（高山市）、棚田と板倉の風景と山里文化（飛騨市）、三湿原回廊（飛騨市）、ケイちゃん（下呂市）、小坂の滝めぐり（下呂市）、龍の瞳（下呂市）

### ■岐阜の宝もの等ブラッシュアップ観光交流推進事業

岐阜県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業を活用し、「岐阜の宝もの」である「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」と、「じまんの原石」である「天生県立自然公園と三湿原回廊」が抱える課題解決と魅力創出につながる事業を展開した。

#### ○歌舞伎衣装魅力発掘・発信事業

[実施期間 平成22年9月30日～平成23年3月31日]

江戸期から残され活用されている岐阜県内の地歌舞伎衣装の保存、PRのため、保存調査、展示活動を展開し、広く県外、海外に向けて情報発信を行った。

①県内の地歌舞伎衣装の調査・記録

②ぎふ地歌舞伎衣裳展の開催

（多治見会場 3月8～13日、名古屋会場 3月21～27日）



○天生県立自然公園と三湿原回廊ブラッシュアップ事業

[実施期間 平成22年6月9日～平成23年3月25日]

飛騨市のみならず、白川村に広がる豊かな森を活用した滞在型観光地づくりに向けた取組を行った。

- ①飛騨市・白川村エリアの将来構想を策定
- ②天生の森サポーター倶楽部の設立
- ③天生県立自然公園、深洞湿原の新散策ルート開設に向けた調査を実施
- ④天生県立自然公園での外来植物等の撤去、池ヶ原湿原でのヨシ伐採等、天生県立自然公園内での携帯トイレ使用ブースの試行
- ⑤モデルツアーの実施（深洞原生林 夏・秋散策会、冬の森モニターツアー2回）
- ⑥天生峠経由シャトルバスの実験運行（10月16～22日）
- ⑦ホームページの開設





## ■「小坂の滝・ウェルネス・ツーリズム」ガイドの養成

岐阜の宝もの「小坂の滝めぐり」を、日本有数のウェルネス・ツーリズムの観光資源に育成していくため、「小坂の滝・ウェルネス・ツーリズム」ガイドを2名雇用・育成し、ガイドのみならず小坂の滝を核とした地域づくりのプランニングやマネジメントができる人材に育成することで、年間を通した事業展開を行う体制づくりを行った。

[実施期間 平成22年5月31日～平成23年3月25日]

- ①滝ガイドの養成（ガイド2名を雇用、ガイド養成講座を3回開催、滝ガイド）
- ②モニターツアーの実施（女性ツアー、冬の滝めぐり、はじめての登山 等）
- ③体験プログラムの開発（種まきから始める手づくり蕎麦体験、かんじき作り 等）
- ④ホームページの開設



## ■「岐阜の宝もの」等を活用した、宿泊旅行商品の造成支援

旅行業者を対象に、「岐阜の宝もの」（明日の宝ものを含む）を活用した、宿泊型旅行企画を公募し、応募企画の中から「岐阜の宝もの」のブランド構築に資する良質な企画を採択し、その企画・催行を支援することで「岐阜の宝もの」を活用した宿泊型旅行商品開発のモデル事例を創出した。

### ○平成22年度の実績

- ・応募企画 10件
- ・採用企画 5件  
〈採用企画のうち「岐阜の宝もの等」の内訳（重複含む）〉
- ・小坂の滝めぐり 3件
- ・川原町界限 2件
- ・郡上鮎 2件



## ■「ぎふウェルネス・ツーリズム」創出に向けた実証実験、モニターツアーの実施

岐阜の宝もの「乗鞍山麓五色ヶ原の森」において、岐阜県を象徴する滞在型の新たな旅スタイルとして、健康、自然、エコをキーワードとした、地球に優しい環境配慮型「ぎふウェルネス・ツーリズム」を創出するための実証実験、モニターツアーを実施。

### 【EV（電気自動車）を活用した旅行商品の造成】

- ・環境配慮型の旅行としてEVを活用した、「乗鞍山麓五色ヶ原の森」の着地型ツアーを造成・販売。
- ・高山市、高山グリーンホテル、中部三菱自動車販売の協力を得て10月7日にエージェント向け実証実験ツアー、同月28日には一般向けモニターツアーとして実施。



## ■飛騨・美濃観光大使を活用した情報発信

県内外の多くの方に岐阜の魅力を広くPRしていただくため、平成22年8月22日に開催されたFC岐阜のホームゲームにおいて、岐阜県出身・在住のレゲエデュオ「MEGARYU」のお二人を、新たに「飛騨・美濃観光大使」として委嘱した。

当日の試合は、「飛騨・美濃じまんの日（8月21日）」を記念した「飛騨・美濃じまん記念マッチ」として開催され、ハーフタイムにピッチ上で知事からMEGARYUのお二人に委嘱状、たすきの授与、記念品の贈呈を行った。



会場内では、MEGARYUが岐阜県の代表的な観光地を紹介する「メガトン新聞」や「飛騨・美濃じまんの日」と「観光大使就任」を紹介するうちわを来場者に配布。「メガ

トン新聞」は、その後開催されたMEGARYUの全国ツアーや9月12日に長良川国際会議場で開催された音楽イベント「岐阜メガトンパンチ」でも配布され、岐阜の魅力を県内外でPRした。

また、平成22年9月5日に垂井町で開催された中山道のウォーキングイベントに飛騨・美濃観光大使の勅使川原郁恵さんを招き、参加者300名と関ヶ原ふれあいセンターから垂井宿約6kmをウォーキングし、中山道の魅力をPRした。



#### ■中山道統一デザイン案内標識設置の促進

「明日の宝もの」に認定された、「中山道」をPRし、わかりやすく案内するため、市町と連携しながら、中山道統一デザイン案内標識の設置を促進した。

- ・統一デザイン案内標識を御嵩町で2基設置

## 2 飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクト

### ■飛騨・美濃じまん観光キャンペーンの展開

#### ○“ぎふを味わおう”キャンペーンの展開

3大都市圏（東京・大阪・名古屋）での岐阜県の認知度向上とイメージアップ、そして誘客促進を図るため、高品質志向の女性（30～50歳代）をターゲットに、岐阜県の観光や食、ものづくりなどの素晴らしさに「五感」を通じて出会い、味わって、楽しむことができる“ぎふを味わおう”キャンペーンを実施。

#### <開催エリア、時期>

- ・東京・青山エリア（10/11～11/3）
- ・名古屋・栄ミナミエリア（11/16～12/6）
- ・大阪・北区エリア（1/25～2/15）

#### <開催内容>

新聞、雑誌等メディアに対してオープニング記者発表会を開催

各エリア内の人気飲食店での岐阜県食材を使用した特別メニューの提供

- ・岐阜県特産品販売
- ・各店舗を巡るショッピングラリー 等



#### ○“ぎふに泊まろう！”キャンペーンの展開（6～9月、12～2月）

（社）岐阜県観光連盟と連携し、「ウェルネス」をテーマに飛騨・美濃じまん観光キャンペーンを展開する中で、観光トップシーズンの夏の期間中及び閑散期の冬の期間中に即効的な宿泊者増加対策として集中キャンペーンを実施。

<対象エリア> 関西方面を中心に東京、名古屋を含む主要都市など

<内 容>

- ・PRキャラバン

- ・旅行予約サイト「楽天トラベル」とのタイアップによる観光情報の発信と宿泊誘導
- ・旅行雑誌「じゃらん」とのタイアップによる宿泊施設情報掲載と連携した観光情報の発信と宿泊予約誘導
- ・中京圏主要駅を活用した観光展の実施
- ・レンタカー会社「マツダレンタカー」とのタイアップによるドライブ旅行誘導
- ・ウェブマガジン「旅色」とのタイアップによる観光情報を発信

#### ○近隣県等との連携による広域観光の推進

##### <富山県>

- ・広域観光マップの作成
- ・共通パンフレットの作成
- ・共同観光キャンペーンの実施

##### <石川県・福井県>

- ・3県をまたぐ広域マップの作成
- ・共同観光キャンペーンの実施
- ・3県をまたぐ旅行商品の造成

(読売旅行：408人、JTB：502人参加)

##### <福井県>

- ・杉原千畝を通じた共同PR

##### <福井県・滋賀県>

- ・「江」ゆかりの地をテーマにした広域マップの作成

#### ■環境配慮型観光の推進 ～「ぎふウェルネス・ツーリズム」プロジェクトの展開～

岐阜の魅力である「ウェルネス」と「宿泊」を組み合わせ、さらに「カーボン・オフセット」を付加した、訪れる人にも地球にも優しい岐阜県を象徴する新たな旅スタイルを提案。

##### 【カーボン・オフセット宿泊プランの販売】

- ・“ぎふ ウェルネス カーボン・オフセット宿泊プラン”の造成・販売を国内最大級の総合旅行サイト「楽天トラベル」に働きかけ、12月から同社が商品化。

##### ※“ぎふ ウェルネス カーボン・オフセット宿泊プラン”

岐阜県内で宿泊することに伴い排出されるCO<sub>2</sub>を、岐阜県内で行われるCO<sub>2</sub>削減プロジェクトでオフセットする宿泊プラン

- ・県内20の宿泊施設が賛同し、各施設50泊、全体で1,000泊を販売。

#### ■「ぎふウェルネス・ツーリズム」創出に向けた実証実験、モニターツアーの実施 <再掲>

## ■「岐阜の宝もの」等を活用した、宿泊旅行商品の造成支援 <再掲>

### ■グリーン・ツーリズムの推進

豊かな自然環境や伝統文化と、そこで営まれている農林漁業を一体的に地域資源としてとらえ、岐阜県ならではのグリーン・ツーリズムを推進するため、関係市町村及び関係団体と連携して「受入体制の充実」と「情報発信力の強化」に取り組んだ。

#### ○受入体制の充実

- ・第9回全国グリーン・ツーリズムネットワーク岐阜・三重大会の開催  
全国のグリーン・ツーリズム実践者が一堂に集い、地域課題の共有とその解決策について検討を行うことで、相互の連携と交流を深めるとともに、両県実践者の資質向上とネットワークづくりを図った（11月）。
- ・ぎふグリーン・ツーリズム推進研修会の開催  
全国大会を次のステップに進めるため、県内関係者のネットワーク強化を図るとともに、今後の「ぎふグリーン・ツーリズム」の方向性について検討した（2月）。
- ・グリーン・ツーリズムインストラクター等体験指導者の育成  
緊急雇用事業を活用し、グリーン・ツーリズムの受入活動の指導者となる人材を育成した（5団体）。

#### ○情報発信の強化

- ・メールマガジン「ぎふの田舎へいこう！」通信の充実  
企業や都市住民に対して岐阜県の田舎体験情報を提供するメールマガジンを毎月1回発行した（毎月1回、第36号：1,330部）。
- ・「ぎふの田舎へいこう！」キャンペーン2010の実施  
登録施設との協働により、施設利用者を対象に抽選で県産品をプレゼントする誘客キャンペーンを実施した（7～9月）。
- ・ぎふの田舎へいこう！魅力発掘事業の実施  
緊急雇用事業を活用し、県内のグリーン・ツーリズム体験プログラムを調査し、ガイドブック『G I F U - D O（ぎふうど）』を作成した。





キャンペーン2010チラシ



ガイドブック『GIFU-DO』

### ■小学生の農山漁村での長期宿泊体験の受入れ推進

学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を進める、国の「農山漁村交流プロジェクト」の受入体制づくりを推進した。

#### ○地域受入協議会の活動支援

- ・ふるさと体験飛騨高山（高山市／19年3月設立）
- ・郡上・田舎の学校（郡上市／20年1月設立）
- ・東白川長期宿泊体験協議会（東白川村／21年4月設立）
- ・白川郷まるごと体験協議会（白川村／22年3月設立）

#### ○学校関係者を対象とした現地プロモーション活動の実施

- ・上記受入協議会の活動紹介と意見交換の場を設定した（1回／8月）

#### ○地域受入協議会の設立支援

- ・新たな受入地域の立ち上げに対し支援を行った。

板取スイス村体験協議会（関市／23年5月設立）

### ■「岐阜フィルムコミッション事業」の推進

岐阜県の新たな地域資源の活用や観光交流につながるよう、映画やテレビをはじめとする映像作品を支援する「フィルムコミッション事業」を推進。平成22年度には17作品の撮影を誘致した。

#### <誘致した主な作品>

○NHK土曜ドラマ「鉄の骨」（撮影日：平成22年5月30日）[テレビ]

出演：小池徹平、臼田あさ美 他

ロケ地：県庁舎（県庁舎での初めての撮影）

放送日：平成22年7月3日～ 全5回



「鉄の骨」撮影風景

○「キツツキと雨」（撮影日：平成23日3月下旬から5月初旬）〔映画〕

監督：沖田修一

出演：役所広司、小栗旬 他

ロケ地：中津川市、瑞浪市、恵那市、白川町、東白川村

公開日：平成24年2月11日

<支援作品のPR>

○全国豊かな海づくり大会に向けた「さよなら夏休み」（21年度支援作品）のPR

- ・関係職員等を対象とした試写会の開催（平成22年5月6日）
- ・完成披露試写会の開催（平成22年5月22日、県立図書館）
- ・県内上映会の開催（郡上市、美濃市、関市、岐阜市）

#### ■iPhoneを活用した新たな観光スタイルの展開

スマートフォンのカメラを通して見る景色に、位置情報を付加した観光施設・飲食店等の情報データ（通称：エアタグ）を表示させることができるアプリケーション「セカイカメラ」を活用し、県下全域に県公式エアタグを8,000件以上整備した。実際に案内板を設置するのと比較し、非常に低コストで時間・労力もかからないため、既に複数の市町村で観光イベント等への活用が図られている。

○主な活用事例：「iPhone おさんぽコース in 高山」（高山市）

「歴史散策」（関ヶ原町）

「うながっぱを探せ！ かわらでかくれんぼ」（多治見市）

#### ■様々な広報媒体を活用した「飛騨・美濃じまん」の発信

○テレビ

- ・県政広報テレビ番組で、飛騨・美濃じまん運動の取り組みや、岐阜の宝もの・じまんの原石に選定されたものを紹介

※岐阜放送

「ぎふ・オンライン」4/21、5/5、5/19、9/1、1/19、3/16

「ぎふ最前線」 9/25

「ぎふ県政フラッシュ」 1/25

「ぎふ県だより」 12/13、2/21

○ラジオ

・県政広報ラジオ番組で、飛騨・美濃じまん運動の取り組みや、岐阜の宝もの・じまんの原石に選定されたものを紹介

※岐阜FM

「GIFU インフォメーション」 2/21

○大手ショッピングサイトの楽天市場「まち楽」において、岐阜県の観光・物産情報等を発信（H21.1.16～）

○フリーペーパー・雑誌等の刊行物

・県内外の主要フリーペーパー（咲楽〔岐阜・愛知県内の各地域版〕7・8・10～3月号、ぷらざ4・8～12・2月号）、県内向け情報誌（OReille 6・7・11・1・2月号）、中京圏向け情報誌（時局 7・9月号）、全国向け業界紙（観光経済新聞 1月5日）等へ情報提供し、記事として掲載

○岐阜県メールマガジンにおいて、イベント・観光情報等を発信（毎月発行）

### 3 飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト

#### ■「2010上海世界国際博覧会」を契機とした中国市場での戦略展開

昨今世界中から注目を浴びる中国において、2010上海世界国際博覧会への出展を契機とし、観光・食・モノを一体化した岐阜県の認知度向上と観光客誘致、岐阜県産品の販路開拓に向けた事業を行った。

○上海万博日本館イベントステージ「岐阜県の日」開催

期 間：平成22年10月23日（土）～26日（火）4日間

テーマ：水の源～清流と森林から生まれた岐阜～

入場者数：延べ38,500人

内 容：

- ・一般開場に先立ち、会期初日の23日にオープニングセレモニーを開催し、総勢150名（中国側50名、日本側100名）を招待。
- ・会場内に岐阜県の宝ものに認定された「小坂の滝」をはじめとした四季の映像を美濃和紙の高さ4mものスクリーンに投影（ウォーターシアター）。
- ・産業プロモーションコーナーを設置し、公募により選定された県内23団体の産業製品を展示紹介
- ・メインステージでは和太鼓集団「GONNA」による岐阜県をイメージする演奏をはじめ、東濃地歌舞伎をはじめとした県内5市（団体）による多様なステージパフォーマンスを展開。



ウォーターシアター起動式の模様



ウォーターシアターの様子



東濃地歌舞伎の公演



産業・プロモーションコーナー

○「岐阜県観光物産展」の開催

上海市内の富裕層をはじめとする中国一般消費者に対し、岐阜県内の観光資源紹介に併せて食・モノなどの商品を実際に販売。現地のニーズ把握と中国販売手法についてのテストマーケティングを兼ねて開催。

期 間：平成22年10月21日（木）～27日（水）7日間

会 場：上海梅龍鎮伊勢丹6階「MARKET」

内 容：

- ・県内から23の企業（団体）が出展。直接一般消費者に対面販売を実施。
- ・ドライフルーツが初日、りんごが最終日に完売、日本酒は販売3日間で売りきれとなるなど、同百貨店において自治体主催で開催された物産展の中では最もコンスタントに売上げを伸ばし、一週間で30万元（約400万円）を売り上げた。
- ・現地バイヤーとの面談会や小売市場視察会も同時開催。



観光・物産展の様子

○上海市内ホテルでの「GIFUプレゼンテーション」開催

中国による岐阜県の知名度を向上させ、上海万博「岐阜県の日」、上海梅龍鎮伊勢丹「岐阜県観光物産展」等の各事業をより実効性のあるものとするため、平成22年5月よりWEBサイトの開設・運営、現地メディアの岐阜県への招へい事業などを始めとしたPR活動を継続的に展開。その一環として、直接現地メディアや旅行会社に対して岐阜県の多様な魅力を紹介するプレゼンテーションを開催。

開催日：平成22年10月21日（木）

場 所：ホテルオークラ花園飯店 2階 グランドボールルーム

参加者：約240名（中国側：上海市旅游局長、メディア約38媒体等約80名）

内 容：

- ・岐阜県PV映像放映及びパワーポイントによる岐阜県の魅力紹介
- ・県内6市長及び企業・団体によるプレゼンテーション
- ・東濃地歌舞伎披露、「シェ・シバタ」柴田氏によるデモンストレーション
- ・知事へのTVインタビュー、メディア囲み取材実施





県観光交流推進局長及び県内市長によるプレゼンテーション



柴田氏によるデモンストレーション

知事囲み取材

### ■観光・食・モノを一体化した、顔の見えるプロモーションの展開

平成22年度は、シンガポール・マレーシア及び中国に知事が赴き、現地旅行会社、航空会社、商社、メディア関係者等に対して観光・食・モノを一体化したPR事業を行ったほか、各分野の重要人物に直接アプローチするなど積極的に県をプロモーションした。

#### 【シンガポール・マレーシア】

○期 間：平成22年8月3日（火）～6日（金）

○内 容：＜シンガポール＞

- ・岐阜県PRセミナー・商談会・交流会 開催（「オーチャード・ホテル」）
  - ・クエック・レンジュ氏岐阜県写真展 開催（「Japan Creative Centre」）
  - ・在シンガポール日本国大使公邸夕食会での県農産物、地場産品PR 等
- ＜マレーシア（クアラルンプール）＞
- ・岐阜県観光セミナー・商談会 開催（「プリンス・ホテル」）
  - ・在マレーシア日本国大使公邸夕食会での県農産物、地場産品PR 等

#### 【中国（上海）】

○期 間：平成22年10月20日（水）～25日（月）

- 内 容：
- ・上海万博における「岐阜県の日」（観光、産業、伝統文化紹介）開催
  - ・「岐阜県観光物産展」開催（上海梅龍鎮伊勢丹百貨）
  - ・現地旅行会社、メディア向け「GIFUプレゼンテーション」開催（市内ホテル「花園飯店」） 等



G I F Uプレゼンテーション（中国・上海）

#### ■海外誘客戦略推進事業、国際観光対策事業の推進

海外から岐阜県を訪れる訪日旅行を促進するため、アセアン諸国（シンガポール、マレーシア、タイ等）や東アジア諸国（中国、台湾等）を重要市場と位置付け、国の「ビジット・ジャパン」（V J）事業や近隣県・関係機関との連携のもと、各種誘客事業を展開した。

○海外メディア・旅行エージェント等の招聘、視察旅行へのアテンド

件数：41件

国：シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、韓国、中国、香港、台湾、インドネシア、オーストラリア、フランス、イギリス、スウェーデン、ドイツ、デンマーク、ハンガリー、チェコ、スペイン、ロシア、アメリカ

○岐阜県観光セミナー・商談会等の開催

シンガポール（8月）

マレーシア（8月）

中国（上海）（10月）

岐阜県内（6月、7月、9月）

○国際観光展への出展、海外での関係機関へのセールス活動

韓国（6月）

シンガポール（8月、2月）

マレーシア（9月、3月）

中国（北京、南京）（9月）

台湾（11月）

タイ（2月）



岐阜県観光セミナー（マレーシア）

■ COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）を活用した岐阜の魅力発信

平成22年10月に名古屋市で開催された「カルタヘナ協定書第5回締約国会議（MOP5）及び生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」の参加者を対象としたエクスカーションや、会期中のPRブース出展を通じて、豊かな自然・歴史・文化等、本県の魅力を世界に向けて発信した。

○COP10参加者向けエクスカーション

県内の優れた自然や歴史、文化を体験するエクスカーションを実施。国連職員や各国政府職員等、合計29名が参加。

日時：平成22年10月23日（土）～10月24日（日）

視察先：白川郷合掌集落、高山市内「古い町並み・高山陣屋」、乗鞍山麓五色ヶ原の森、クックラひるがの、世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ



白川郷合掌集落にて

○岐阜県生物多様性PR事業

岐阜県の豊かな自然環境が育む生物多様性や清流からの恵みを紹介するため、CO

P10 生物多様性交流フェアにブース出展した。

岐阜県希少野生生物保護条例指定種などの野生生物や清流からの恵みである県産品などについてパネルや映像等で紹介することで岐阜県の魅力を発信した。期間中は約5,000人の来場者があり、ハリヨの保護活動や県産材利用製品等に関心が寄せられた。



#### ■インターネットを活用した海外販路開拓

県内中小企業の販路拡大を図るため、楽天(株)と締結(平成21年11月9日)した包括連携協定に基づき、インターネットを活用した海外の市場開拓や売り上げ拡大に向けた取組を支援した。

##### 【Web物産展等の開催】

○海外向け物産観光展「岐阜県海外フェア2010」の開催

- ・開催期間：平成22年11月29日～平成23年1月7日
- ・ページ作成言語：英語、日本語
- ・参加店舗：28店舗(物産)、16施設(観光)

#### ■アセアン地域への農産物等の輸出促進

県産農産物の販売促進とブランド化を推進するため、岐阜県農林水産物輸出促進協議会(※1)と連携し、アセアン地域をターゲットとして、富有柿や飛騨牛を中心に、レシピ等における情報発信力の高い要人へのPR、百貨店等での販売フェアの開催、バイヤーやレストラン関係者との商談等を行い、新たな販路開拓に取り組んできた。

富有柿は、シンガポール・タイの3ヶ所の百貨店で継続販売されているほか、飛騨牛については、飛騨ミート農業協同組合連合会の「飛騨食肉センター」が、平成22年1月にタイ・マカオ、7月に香港、9月にシンガポール向けの輸出施設としての認定を受け、供給体制が整ったことにより輸出量が倍増し、シンガポール・香港のレストランでは、新たに4店舗を「飛騨牛海外推奨店」として認定するなど、着実に成果をあげている。



シンガポール天皇誕生日レセプション



タイの岐阜県フェア

○平成22年度の輸出実績

柿：輸出量10t

販売店舗：香港5店舗、タイ2店舗、シンガポール1店舗

飛騨牛：輸出量1,071kg

飛騨牛海外推奨店（※2）：香港5店舗、シンガポール2店舗

（※1）岐阜県農林水産物輸出促進協議会とは、県農産物等の輸出促進を目的に平成16年に、県、農業団体、食品産業団体、ジェトロ岐阜等8団体により設置された団体のこと。

（※2）飛騨牛海外推奨店とは、飛騨牛の銘柄化を進めている飛騨牛銘柄推進協議会が認定する海外で飛騨牛を取り扱う店舗のこと。



## 4 県産品ブランド力向上プロジェクト

### ■「飛騨・美濃すぐれもの」認定、販売促進

優良でプレミアムな県産品を「飛騨・美濃すぐれもの」として認定し、県産品の看板商品としてPRするとともに、百貨店催事やイベントへの出展など消費者と直結した販売戦略を展開した。

なお、平成22年度からより岐阜県のブランディングにつなげるために、審査方法を1次審査（書類審査）、2次審査（現物審査及び申請者によるプレゼンテーション）の2段階選抜方式に見直し、バイヤーなどの各審査員が、販売プロモーションを視野に入れた選定を行った。

#### ○「飛騨・美濃すぐれもの」の募集、認定

平成22年度認定商品：5点（食品4点 非食品1点）

平成23年3月末現在認定商品数：135点（食品121点 非食品14点）

#### ○販売、PR支援

- ・首都圏のスーパーマーケット等での販売プロモーション実施。
- ・「ぎふを味わおうキャンペーン」などで認定商品と岐阜県観光をセットにしたPR。
- ・岐阜県ポータルサイト（岐阜県ブランド集）でのPR。
- ・楽天市場ショップへの出店支援。
- ・楽天市場でのバナー広告支援。
- ・GKプロジェクト（岐阜県ーキリンビール共同プロジェクト）で活用PR。



審査方法の見直しに伴いリニューアルされたロゴマーク



紀ノ国屋で開催した販売プロモーション「飛騨美濃ウィーク」

## ■岐阜県ブランド戦略に基づく、チームの派遣等によるブランド化支援

岐阜県ブランド戦略に基づき、ブランド構築に取り組む方々（中小企業者、生産者、組合、生産振興会、商工会議所・商工会、市町村等）からの要請に応じ、関係部局が連携してチームを派遣し、個別具体的な支援を実施した。

また、ブランド構築活動に関する各種相談への部局連携的な対応として、ワンストップサービス支援を実施した。

### ○岐阜県ブランド戦略推進チーム

#### <派遣先>

- ・キムチ日本一の都市おこし研究会（各務原キムチ）【19年～】

派遣回数19年：3回、20年：4回、21年：1回

- ・八百津町商工会（八百津のおやつ）【19年～】

派遣回数19年：5回、20年：5回、21年：2回、22年：1回

- ・荘川そば振興組合（荘川そば）【20年～】

派遣回数20年：3回、21年：1回

- ・B-D00 コミュニケーションズ株式会社（岐阜特産品ラスク）【22年～】

派遣回数22年：2回

#### <支援内容>

ブランド化計画策定に向けた取組み支援、販路開拓に向けたPR支援等。

### ○ワンストップサービス

#### <相談対応>

19年：4件、20年：2件、21年：7件、22年：6件

#### <支援内容>

国、県等による支援制度及びその効果的な活用方策の紹介等。

## ■「県産品愛用推進宣言の店」の指定

県産品愛用による地産地消を推進するため、積極的に取り組む店舗の普及・活動を支援するとともに、県民の県産品に対する理解と認識を深め、県産品の消費拡大を図った。

#### <平成22年度の取組み>

平成23年3月末現在で、247店舗を指定

（飲食の部159店舗、食品製造販売の部5店舗、販売の部83店舗）

## ■県産品の料理指定店・販売指定店を拡大促進

飛騨牛、奥美濃古地鶏等の消費拡大のため、料理指定店・販売指定店を拡大。

区分		17年3月 (計画初年度)	23年3月	増加数
飛騨牛	料理指定店 (H2～)	125店舗	169店舗	44店舗
	販売指定店 (H元～)	212店舗	203店舗	-9店舗
奥美濃古地鶏	料理指定店 (H6～)	47店舗	40店舗	-7店舗
	販売指定店 (H6～)	55店舗	46店舗	-9店舗
飛騨けんとん	料理指定店 (H10～)	13店舗	25店舗	12店舗
美濃けんとん	販売指定店 (H10～)	53店舗	42店舗	-11店舗
飛騨清流河ふぐ	取扱料理店 (H12～)	10店舗	12店舗	2店舗

### ■首都圏のセレクトショップと連携した県産品の商品力強化

県内モノづくり企業の商品開発力の向上や、消費者直結型のビジネスモデル構築支援、首都圏における販路開拓支援を目的に、都内でセレクトショップを運営するメイド・イン・ジャパン・プロジェクト(株)と締結(平成22年2月24日)した連携協力に関する協定に基づき、各種事業を実施した。

#### ○県産品のテストマーケティング(4回)

セレクトショップにおいて県産品のテスト販売を実施し、首都圏の高感度な消費者やバイヤーの厳しい目にさらす機会を提供することで、県内モノづくり企業の商品開発力の向上を図った。

(販売実績) 68社・188商品。

#### ○県産品常設販売コーナーの設置(通年)

セレクトショップに「岐阜県コーナー」を設置し、岐阜県産品のブランド発信を図った。

#### ○産業観光ツアー(4企画)

首都圏の高感度な消費者を対象に、モノづくりの現場を見学する産業観光ツアーを実施し、岐阜県のモノづくりに対する理解の促進を図った。

### ■インターネットを活用した販路開拓の促進

県内中小企業の販路拡大を図るため、楽天(株)と締結(平成21年11月9日)した包括連携協定に基づき、インターネットを活用した国内外の市場開拓や売り上げ拡大に向けた取組を支援した。

#### 【Web販路拡大セミナーの開催】

##### ○農業者向け「農産物販路拡大セミナー」

- ・開催日：平成22年11月22日
- ・場 所：岐阜メモリアルセンター
- ・参加者：63名
- ・内 容：楽天スタッフによる販路拡大セミナーと楽天出店店舗による事例発表。

- 「ECセミナー&パネルディスカッション」
  - ・開催日：平成23年2月23日
  - ・場 所：県民文化ホール未来会館
  - ・参加者：約250名
  - ・内 容：楽天スタッフによる販路拡大セミナーに加え、楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー受賞店舗を含む成功店舗5名によるパネルディスカッション。

#### 【Web物産展等の開催】

- 「岐阜県いいもの祭り」の開催
  - ・開催期間：平成22年6月18日～7月20日
  - ・参加店舗：36店舗
  - ・参加店舗総売上：1億5,260万円
- 「福井・岐阜合同物産展」の開催
  - ・開催期間：平成22年11月25日～12月27日
  - ・参加店舗：31店舗（岐阜県）、29店舗（福井県）
  - ・参加店舗総売上：7,892万円

#### ■農産物トップブランドづくりの推進

- 柿
  - ・新ブランド「果宝柿」の生産拡大に向け、産地に対して高糖度で外観品質の良い「袋掛け富有柿」の生産に必要な技術の普及を目指し、テキストを活用し産地毎に栽培研修会を実施した。
  - ・緊急雇用事業を活用した岐阜柿PR事業の実施、販売促進イベントの開催に取り組んだ。特に、「果宝柿」については、名古屋市において販売PRを実施し、消費者の認知を高めることができた。
  - ・試験研究の取組として、柿の硬さに着目し、食べ頃に関する調査に取り組み、し好に合った食べ頃を明らかにした。
- 栗
  - ・新品種「ぼろたん」は、20年度から導入が始まり、平成22年度までに県内各産地に、延べ1,600本余（面積換算 約4ha）が導入できた。
  - ・栗産地振興策として、「岐阜県くり生産者大会」を開催し（8月、美濃加茂市）、栗の高品質果づくりと品種特性に即した栽培技術の研鑽や、新たな販路開拓などに関する知識の向上を図った。
  - ・「ぼろたん」の消費者PRとして、レシピ発表会・試食会を開催（2月、岐阜市）。関係者、一般消費者、マスコミに対して、県民より提案された「ぼろたん」を美味しく食べられるレシピの紹介と、焼き栗等3つの料理の試食によりPRを行った。

- ・県下各産地における「ぼろたん」苗木導入を支援するとともに、特に恵那地域では生産全般に係る支援、接ぎ木等の支援など生産・販売を拡大する支援を行った。

#### ○宿儺かぼちゃ

「宿儺かぼちゃ」を、飛騨地域の、ほうれんそう、夏秋トマトに次ぐ第3の品目として位置づけ、関係機関と連携して、生産組織の組織強化、生産技術の高度化、販路拡大支援を進め、宿儺かぼちゃの生産拡大と産地拡大を支援した。

### ■「ふるさとのじまん農産物」づくりの推進

農林事務所農業普及課が、高度な専門力やコーディネート機能を発揮して、農家、市町村、農協等に対し、ふるさとの「じまん農産物」づくりに向けた意識を醸成するとともに、新品種・新技術の導入や生産から加工、流通、販売までを総合的に支援する普及活動を展開した。

取り組みは地域の振興品目（ふるさとのじまん農産物）や3ヶ年の振興方針等を定めた「ふるさとのじまん農産物産地化計画」に基づき推進し、新たな品目として、「アスパラガス」、「ブルーベリー」、「春まちにんじん」などの定着化や「くり」、「円空さといも」などの栽培面積が拡大されるなど「ふるさとのじまん農産物」による産地強化を図ることができた。

### ■県産農産物等のPR、販路拡大

県産農産物の市場を拡大し、農産物出荷額の向上を図るため、農業団体等が行うメディアや消費者へのPR、大都市圏への販路拡大などの取組を支援するとともに、農業者によるレストラン等業務需要者への販路開拓を支援するための商談会等を県が主体となり実施した。

#### ○飛騨美濃農産物大都市キャンペーン開催支援

本県の主要青果物である「ほうれんそう」、「トマト」、「いちご」、「富有柿」などについて、首都圏、大阪圏、中京圏等の市場と連携した販売促進活動の展開の他、新たな販路開拓に向けた商談活動を行った。

#### 【首都圏】

- ・六本木ヒルズ 「ぎふマルシェ」出店（5月15～16日）
- ・飛騨牛等PRレセプション（高級フランス料理店においてメディア等への飛騨牛PR 10月12日）
- ・飲食店6店において、県産農産物メニューフェアを開催（10月11日～11月3日）

#### 【関西圏】

- ・レストラン19店舗で野菜、飛騨牛を使用したメニューフェアを実施（1月25日～2月15日）
- ・ぎふを味わおうキャンペーン参加店舗への県産農産物利用に向け、店舗訪問の実施



## 【中京圏】

- ・レストラン22店舗で野菜、飛騨牛等を使用したメニューフェアを実施（11月16日～12月6日）
- ・ぎふを味わおうキャンペーン参加店舗への県産農産物利用に向け、店舗訪問の実施

### ○大都市圏での農産物PR販売支援

- ・築地市場の市場関係者、観光客向けに発行されるフリーペーパーでの県産農産物のPR
- ・「マルシェ・ジャポン名古屋」への農産物等の出店（9月4、18、19日の3日間、延べ11団体）

### ○青果物フェアの開催支援

- ・全農岐阜県本部が出荷市場と連携して行う販売促進活動に対する支援  
関西圏（量販店延べ19店舗）、中京圏（量販店延べ84店舗）で実施

### ○業務需要向け販路の開拓

業務需要者を産地に招いた産地見学会を実施した他、地方銀行と連携し名古屋市内で商談会を開催した。

- ・内容：外食・中食産業等のバイヤーを招いた「産地見学会」と「商談会」  
をセットで開催し、業務用需要を開拓

（実施時期及び場所）

10月 6日	商談会：郡上市	産地見学会：飛騨・郡上地域
12月 7日	商談会：岐阜市	産地見学会：中濃地域
1月17日	商談会：名古屋市	

### ○地産地消フェアの開催、イメージアップ活動の推進など

- ・県産農産物とその加工品を一堂に集めてPRする第24回岐阜県農業フェスティバルを県庁周辺で開催。（10/23～24）
- ・県産農産物と県内の朝市・直売所を中京圏でPRするため「飛騨美濃ふれっしゅ直行便」を名古屋市で開催。（金山総合駅イベント広場3回）
- ・県産農産物等のイメージアップを図るためTV番組等や県外でのイベントを通じてPRを実施。

（TV番組）

- ・「プチ・クッキング」（ぎふチャン、中部電力提供）
- ・「うまいの極み」（CBCテレビ、アサヒビール提供）

（県外イベント）

- ・「とやま食の王国フェスタ2010」／富山市（10/29～30）
- ・「農林水産祭実りのフェスティバル」／東京都（11/5～6）
- ・魅力ある直売所づくりを推進するため、直売所運営の専門アドバイザーを派遣。

- ・岐阜県食と農を考える県民会議の会員に対してメールマガジンの配信を開始し、朝市・直売所や旬の県産農産物、地産地消に関わるイベント等の情報を提供。



第 24 回岐阜県農業フェスティバル

#### ■飛騨・美濃伝統野菜の認証、PR

- ・これまでに認証した「飛騨・美濃伝統野菜」27品目について、消費宣伝として各種イベントでの紹介、マスコミへの情報提供を行った。
- ・品目の特性に応じた技術情報提供による生産振興と、生産量に応じた量販店・直売所等での「飛騨・美濃伝統野菜」認証マークを活用した販売を支援した。

#### ■県産農産物を活用した新たな料理・菓子の開発と商品化

##### ○おもてなし料理・菓子コンテストの開催

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催に向け、県産農産物を使った料理・菓子のレシピコンクールを実施し、県産農産物の活用について普及啓発するとともに、優秀作品については商品化に向けて県内の外食及び食品製造事業者等にレシピを提供した。

応募数：848 作品（ごはんの部：155 作品、おかずの部：297 作品、おやつ・デザート  
の部：368 作品、弁当の部：28 作品）

表彰作品：12 作品（ごはんの部：1 作品、おかずの部：4 作品、おやつ・デザート  
の部：5 作品、弁当の部：2 作品）

#### ■「ぎふ清流国体」に向けた地域ブランドの研究開発の推進

平成24年に開催される「ぎふ清流国体・清流大会」に向け、県内産業の活性化を図るため、新たな地域ブランド品の開発と実用化を目指す。

平成22年度には、「国体に向けた新たな産品開発研究報告会」を開催して、国体に関する企業、農業者、市町村等を対象に、研究成果と技術の移転・普及状況を紹介した。

	目 標	平成22年度の取組
国体に彩りを添える「花き新品种」の育成	○新品种登録(平成23年度までに) ・切り花：2品種 岐阜県を代表するトルコギキョウ ・鉢花：1品種 岐阜県が育成した新しい品目フランネルフラワーの新品种 ・花壇苗：1品種	○フランネルフラワーの高品質化に向けた栽培試験を実施 ○新品种の育成・選抜 ・トルコギキョウ「ひだの雪姫」の色違い選抜系統の現地調査 ・花壇用サルビア種間雑種系統の育成、選抜
「夏秋イチゴ」の高品質安定生産技術の確立	○高温期における栽培管理技術の確立 ・収量の向上及び安定化 現状：1.5 t/10a→目標：2.5 t/10a ○県オリジナル品種の育成 ・民間育成の主力品種と同等の品質を有する新品种	○高温期における栽培試験等を実施 ○現地検討会、試験成績検討会を通して技術・普及の支援 ○選抜した県オリジナルの1系統を試験栽培
早生「甘カキ」の高品質安定生産技術の確立	○「早秋」の結実・収量の安定 ・現状：150kg/10a→目標：1.5 t/10a ○「太秋」の汚損果の発生抑制(収量比) ・現状：30～50%以上→目標：30%以下	○生理落果発生対策(早秋) ・適正な樹勢管理と人工授粉による生理落果の軽減 ○汚損果発生対策(太秋) ・光反射資材、袋かけ栽培による汚損果の軽減
大粒「クリ」の新品种(ぼろたん)を使った加工技術及び病害虫発生抑制技術の開発	○新しい加工品及び加工技術の開発 ・和菓子・洋菓子等新しい加工品の開発 ・一般家庭向け調理方法の検討(レシピの紹介、味覚を活かす加工法の検討) ○病害虫果の発生抑制(全収量比) ・現状：30%→目標：10%以下	○菓子業者と連携した加工品の開発 ・クリの形状及び素材の味を活かした創作菓子を試作 ○ぼろたん用の傷入れハサミの開発 ○一般消費者より公募したレシピを基にレシピ集を作成 ○生産規模の拡大 1500株(375a分)
県産豚肉の高品質化技術の確立	○霜降り豚肉の開発 ・牛肉の「サシ」のような付加価値化 ○ドリップロス低減技術の開発 ・店頭販売時のドリップロス低減 目標：現状の50%削減 ・開発飼料による飼養管理技術の確立	○開発した種豚群「ボーノブラウン」を用いた霜降り割合向上効果の実証 ・「ボーノブラウン」の精液を用いた試験生産を実施 ○ドリップロス低減飼料の開発 ・開発飼料によるドリップロス低減効果を実証、飼料の配合組成を決定
カジカの養殖技術の確立	○採卵安定化・量産化技術の開発 ・国体時：33,000尾の供給 ○新たな地域特産品の育成 ・温泉旅館や料理店と連携した新しい地域特産品の開発	○特産品化を目指した新商品の開発 ・カジカ養殖研究会との連携を実施(飛騨市、下呂市等の14個人・団体) ・カジカ料理、土産品の試作 ○簡易なカジカ養殖システムの開発
ぎふ清流国体に向けた新しい陶磁器食器の開発	○環境負荷低減エコ食器の開発 ・廃食器配合(リサイクル)率の向上 現状：20%→目標：50%以上 ・焼成温度の低下→目標：1,150℃以下 ・温室効果ガス 従来比15%以上削減 ○軽量強化磁器食器の開発 ・磁器食器特性の向上(既存品比) 強度：既存品並、重量：20%軽量化	○廃食器粉末を高配合化したリサイクル素地特性の検討 ・リサイクル率50%、1,150℃焼成で強度が30%向上する透明釉薬を開発 ○軽量強化磁器食器の試作品開発 ・既存品に比べ、約10%軽量化 ・既存品に比べて1.5倍強度を向上



研究報告会での展示及び説明風景

### ■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会時に全国の選手らをもてなし料理のコンテストを開催

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会開催に向け、開催気運の高揚及び県産食材の地産地消の推進を図るとともに、2012年に開催される両大会に全国から訪れる選手・監督等の大会参加者を「食」の面から暖かくおもてなしするため、岐阜県の食材を用いたアイデア料理や自慢の家庭料理等を募集し「おもてなし料理・菓子コンテスト」を開催。

特にコンテストの優秀作品については、両大会の献立レシピ「ミナモのおもてなし献立レシピ」に掲載し、民泊及び宿泊施設での食事の提供に役立てていく予定。

平成22年10月16日（土）、石井学園城南高校において、第2次審査（試食審査）を開催し、応募作品848点の中から以下の通り最優秀賞（プロ部門、アマチュア部門各1点）、優秀賞（プロ部門、アマチュア部門各2点）、社団法人岐阜県調理師連合会会長賞（プロ部門、アマチュア部門各1点）、農政部長賞（プロ部門、アマチュア部門各2点）を決定。

なお、プロ部門の作品中、奥美濃古地鶏の料理や、県産米粉を使った焼ドーナツ等23品目が市販化されている。

また、一般からの応募作品では、21作品、約7万4千食（平成23年9月末現在）が、小中学校等の給食で活用されている。



最優秀賞 プロ部門  
（ごはんの部）

「白川発～豆腐と飛騨牛の隠れん坊カレー鍋～」



最優秀賞 アマチュア部門  
（おやつ・デザートの一部）

「大！うまい根！（おお！うまいね！）」





優秀賞 プロ部門  
 (おやつ・デザート部の部)  
 「空穂屋(UTSUBOYA)焼ドーナツ」



優秀賞 アマチュア部門  
 (おやつ・デザート部の部)  
 「勢隆 ちから」



優秀賞 プロ部門  
 (おかずの部)  
 「奥美濃古地鶏南蛮と秋野菜のラタトゥユ」



優秀賞 アマチュア部門  
 (おかずの部)  
 「やわらか里芋ハンバーグ」



(社)岐阜県調理師連合会会長賞 プロ部門  
 (おかずの部)  
 「けんどん極みのトマト味噌鍋」



(社)岐阜県調理師連合会会長賞 アマチュア部門  
 (弁当の部)  
 「ぎふ清流紀行 - ミナモ弁当 -」





農政部長賞 プロ部門  
(弁当の部)  
「飛驒牛 勝つ！重」



農政部長賞 アマチュア部門  
(おやつ・デザート部の部)  
「もちっ粉・岐阜っ子・柿っ恋ロール!？」



農政部長賞 プロ部門  
(おやつ・デザート部の部)  
「キャラメルポムデュリ」



農政部長賞 アマチュア部門  
(おかずの部)  
「誰もが主役ナンです!!～山の幸であご  
のシャキシャキ運動をしよう～」

#### ■ぎふの味・伝承名人認定事業による県産品のPR

県内の調理技術に優れた調理師を対象に岐阜県産の「こだわり食材」を使用した料理コンクールを開催し、優秀な成績を収めた2名を「ぎふの味・伝承名人」に認定した。コンクールの食材に県産品を指定することにより素材のPRを行った。

○平成22年度ぎふの味・伝承名人認定コンクールの開催

開催日：平成22年8月25日

場所：城南高等学校

課題：主材料は、岐阜県産のトマト、ほうれん草、大根、茄子のうち必ず2品以上を使用すること。副材料は自由（ただし、肉類、川魚を使用する場合は県内産のものを使用すること）。



### ■岐阜県産材のブランド化推進

岐阜県産の木材の信頼性確保によるブランド力の強化を図るため、「ぎふ性能表示材認証センター」を創設し、木材の含水率や曲げ性能などの品質・性能を表示する「ぎふ性能表示材」の制度を運営するとともに、安定供給体制整備を進めた。

ぎふ性能表示材	
	
ぎふ性能表示材認証センター認定工場 業〇〇〇〇	
製種名（銘柄名）	ヒノキ
寸法	DBH: 100mm 120 × 240 × 4
曲げ性能	GE-70
含水率	GSD-20
材目の英称	特一
製造業者名 〇〇〇製材所 （ぎふ性能表示材認証センター会員）	

【ぎふ性能表示材ラベル】

### ■ぎふの木で家づくりの推進

県産材の利用促進を図るため、住宅の構造材や内装材に一定量の県産材を使用した建築主に対し、経費の一部を助成した。（平成22年度実績：構造材補助100棟、内装材補助43棟）

## 5 まちづくり支援・移住定住推進プロジェクト

### ■「まちづくり支援チーム」「ふるさと応援チーム」の派遣等によるまちづくり支援の推進

「ぎふまちづくり応援プラン」（平成19年3月）に基づき、地域主体で行われるまちづくりに対する一元的な相談窓口「まちづくり総合窓口」を設置し、実際に現地に赴いて各地域の実情を把握することにより、当該地域にとってより効果的な対応と支援策を住民の方々と一緒に進めていく「まちづくり支援チーム」を3地区に派遣した。

また、これまでの「まちづくり支援チーム」の経験を活かし、地域課題を解決して「ふるさとの元気づくり」を支援するため、主に過疎地域を対象に新たに「ふるさと応援チーム」を創設し、その第1号として郡上市明宝地区に派遣した。

さらに、外部専門家などによる相談や調査を行う「まちづくりアドバイザー派遣」や、まちづくり支援チームの派遣地域において、自主・自立的なまちづくり活動を促す「自立的まちづくり応援補助金」により活動を支援した。

#### 【まちづくり支援チームの派遣】

##### ○揖斐川町谷汲門前地区（H19年6月～）

かつての活気やにぎわいを取り戻すため、門前町に相応しい街並みづくりと交流人口の増加に資する様々な取組（イベント等）を支援した。

< 22年度派遣実績 > 延べ8回



< 揖斐川町谷汲門前地区 >

国土交通省「手づくり郷土賞」授賞式

##### ○土岐市駄知地区（H20年5月～）

陶磁器による産業観光を活かしたまちづくりを目的に、交流人口の増加による地域経済の活性化、陶磁器産業のブランド力の向上が図られるよう案内看板の作成やイベント実施を支援した。

< 22年度派遣実績 > 延べ8回

○御嵩町御嶽宿地区（H20年9月～）

地域内の歴史資源である旧中山道御嶽宿、願興寺のほか、近隣のみたけの森、中山道謡坂等の資源を活用した景観整備のための住民主体の活動など、街並み整備や交流イベントの実施などの交流人口の増加に向けた取組を支援した。

< 22年度派遣実績 > 延べ7回

#### 【ふるさと応援チームの派遣】

○郡上市明宝地区（H22年9月～）

移住定住の推進、特産品開発（ブランド化）、観光交流活動などの活動を連携させ、人口流出抑制と地域経済の振興を図るため、地域づくり団体同士の連携体制の構築や個別の取組の課題解決に向けた支援を行った。

< 22年度派遣実績 > 延べ6回

#### 【まちづくりアドバイザーの派遣】

地域住民やNPO、任意団体等が、市町村と連携してまちづくりの推進に関する研修会等を行う際に、外部有識者（専門家）をまちづくりアドバイザーとして派遣し、地域が主体となった地域資源の発掘、評価、活用方策等についての助言を行った。

< 22年度派遣実績 > 延べ8回

#### 【自立的まちづくり応援補助金の交付】

まちづくり支援チームの派遣地域において、活動を進める団体が地域の魅力を向上させるとともに、住民の参画意識の高い自主・自立的なまちづくり活動を促すため、住民自ら行う町並みの景観整備等に対して補助した。

< 22年度交付実績 > 3件 918千円

#### ■「地域がんばり隊」の導入による過疎地域の振興

過疎地域を調査研究や教育のフィールドとしている岐阜経済大学と連携し、過疎地域に必要な人材を「地域がんばり隊」として派遣して農林業や地域行事の支援などを行うことにより、「地域がんばり隊」の役割や過疎地域に必要な人材などに関する調査分析を行った。

< 22年度調査研究事業 >

委託先：岐阜経済大学

派遣先：郡上市、飛騨市（各1名）

活動内容：農林業の応援・従事、住民の生活支援、地域振興に関する企画提案と実践、地域活動への参画、地域（自治会等）との連携・協力 等



「地域がんばり隊」郡上市での活動（農作業支援）

### ■「地域振興チャレンジ事業」による過疎地域の振興

主に過疎地域において、継続的な雇用の推進と地域資源を活用した経済的発展を図るため、特産品開発や観光交流、農林業などで人材の確保と新たなビジネスへのチャレンジを行う団体等を支援した。

< 22年度実績 >

委託先：過疎地域振興に取り組む道の駅や民間、地域づくり団体等 10 団体

実施内容：特産品開発、ブランド化、観光交流事業 等

「地域振興チャレンジ事業」委託業務 事業概要			
通番	受託者	所在地	事業名
1	あんじゅファーム株式会社	池田町	柿酢の防除効果を活用した米の栽培・普及と地元農産物の移動販売事業
2	関むぎパッションフルーツ組合	関市	関市武儀地域産パッションフルーツのブランド化事業
3	石徹白地区地域づくり協議会	郡上市	郡上市石徹白地区の特産品開発事業
4	明宝温泉開発株式会社 (明宝温泉 湯星館)	郡上市	明宝温泉を核とした地域資源の発掘及び新商品開発事業
5	有限会社新世紀工房 (道の駅 茶の里東白川)	東白川村	地元産豚肉と米粉を使用した特産品(餃子)開発事業
6	特定非営利活動法人 田舎暮らし応援ネットぎふ	中津川市	中津川市の空家、空地情報の発信と農業体験事業
7	株式会社 美女高原ファーム	高山市	ホワイトコーン等特産品開発事業
8	有限会社のりくら倶楽部	高山市	乗鞍岳山頂の土産物開発と地元木工作家とコラボによる観光体験事業
9	HIP有限会社 (Hida Internatinal Planning)	飛騨市	飛騨市山之村地区の特産品開発、地底空間(旧神岡鉱山)での農産物栽培事業
10	馬瀬総合観光株式会社 (馬瀬川温泉 美輝の里)	下呂市	下呂市馬瀬の自然・農業・食体験による都市との交流事業





受託した10事業者による成果発表会

### ■移住・定住の推進

観光などによる来訪の際に、本県の魅力を体験することを契機として、都会からの移住を進め、人口減少に歯止めをかけることによって地域の振興を図ることを目的に移住・定住推進事業を実施した。

#### ○移住・定住モデルエリアの構築支援

- ・モデル地域：揖斐川町藤橋・久瀬地域
- ・田舎暮らし体験プログラム 参加者：32名  
   ショートステイ（1泊2日）コース  
   ミディアム・ステイ（2泊3日）コース  
   ロング・ステイ（1週間）コース

#### ○移住・定住セミナー・相談会の開催、フェアへの出展

- ・セミナー・相談会の開催（東京：1回、名古屋：2回）
- ・各種フェアへの出展（東京：2回、県内：4回）

#### ○移住アドバイザー（地域の世話役）の養成

- ・会場 奥矢作勤労青少年レクリエーションセンター（恵那市串原）
- ・出席者 地域の世話役&世話役候補者、市町村担当者 14名



田舎暮らし体験プログラム  
(H22.10~H23.1)



岐阜県総合移住相談会 in 名古屋  
(H23.1.30)

## ■グリーン・ツーリズムの推進〈再掲〉

### ■民間団体による農山村定住・交流人口増加につながる取組を支援

県内の地域資源（自然、文化・伝統、農林地等）を活用し、農山村の定住・交流人口の増加につながる新しいビジネスモデルの構築とその実証を行った。

- ・ぎふ農業協同組合(岐阜市)・・・特産品・農産加工品開発、都市農村交流
- ・NPO 法人メタセコイアの森の仲間たち(郡上市)・・・都市農村交流、猟師事業
- ・NPO 法人山菜の里いび(揖斐川町)・・・都市農村交流、耕作放棄地再生・特産品開発
- ・株式会社和仁農園(高山市)・・・農業体験、子ども対象の環境調査、耕作放棄地調査
- ・株式会社モールドック（各務原市）・・・トレーハウスによる滞在型市民農園事業

### ■棚田の保全と魅力のPR

棚田保全に対する意識向上を図るため、棚田の魅力や保全活動の必要性を普及し都市住民等に活動参加を促すなどの棚田保全活動の推進、支援を実施した。

#### ○普及啓発活動

「ぎふの棚田21選」PR看板等の設置：5地区

- ・正ヶ洞棚田（郡上市）・小川棚田（下呂市）・上代田棚田（八百津町）
- ・乗政棚田（下呂市）・栃久保棚田（恵那市）

#### ○棚田保全組織への支援

棚田保全活動への支援を実施：5地区

- ・坂折棚田保存会（恵那市）・北山集落（八百津町）
- ・滝町棚田保存会（高山市）・種蔵を守り育む会（飛騨市）
- ・小川高洞棚田保存会（下呂市）



ぎふの棚田21選PR看板



棚田保全活動

### ■ぎふ水土里の魅力再発見

豊かな生態系や美しい景観、農村固有の伝統文化など県内の農村にある魅力を再発見し、広く県民の方々に知ってもらおうと共に、多くの方が農地や農業用水等の地域資源に触れ、

県全体で魅力ある農村づくりに取り組む運動を実施した。

○普及啓発活動

- ・ぎふ水土里の展示会（農業地フェスティバルや各県域で実施）
- ・ぎふ水土里の体験スタンプラリー（県内各地10回開催：延べ1,641人）

○体験活動

- ・農地・水・農村環境保全向上活動（533組織：約25,000ha）
- ・ぎふ水土里の探検隊（3地区）
- ・ぎふ田んぼの学校（県内各地10回開催）



ぎふ水土里の体験スタンプラリー



ぎふ田んぼの学校

### ■JR岐阜駅周辺地域の誘客及び消費拡大

岐阜市の玄関口であるJR岐阜駅周辺地域の新しいにぎわい創出空間として、隣接するアクティブGの店舗スペースを活用し、岐阜県産の商品を扱うセレクトショップの運営やイベントの開催、地域情報を発信。

また、JR岐阜シティ・タワー43のアトリウム及び空き店舗、駅西広場デッキ（スクエア43）に「EKI-Site 43 Gifu（エキサイト43ギフ）」を開設・運営し、季節ごとに多様なイベントを実施し、JR岐阜駅への誘客促進と中心市街地での消費拡大を図った。

### ■空き店舗活用等による誘客

高山市の商店街の空き店舗を活用して開設した市街地回遊拠点「ひだっちカフェ・ひだっちさるぼぼショップ・ひだっちグルメ工房・ひだっち獅子ギャラリー・ひだっちGIFU SELECT」を運営し、地元産品を使った土産品や新キャラクター商品の販売、IT技術を使った観光案内・地域情報の提供、まちなか回遊型イベントを実施した。

### ■iPhoneアプリケーション開発拠点の確立

急速な市場拡大が進んでいるiPhoneアプリケーションの開発人材の集積、交流や情報発信を行うため、ソフトピアジャパン・ドリームコア内において拠点施設「ドリームコア・コレクティブ」を運営。アプリ開発講座「iPhone 塾」や情報交換会「モバイルカフェ」の

開催、アプリ開発ベンチャーに開発環境を提供する「iPhone フロア」の設置など、様々な事業を展開することにより、他県に例のないスマートフォンアプリ開発拠点としての地位を確立し、ソフトピアジャパンエリアの更なる魅力向上と賑わいの創出を図った。

〈平成22年度実績〉

- iPhone 塾 : 186 講座開催 受講者のべ1,500名
- モバイルカフェ : 38回開催 参加者のべ1,300名
- iPhone フロア : 8事業者が入居済み

## ■電線共同溝事業の推進

都市災害の防止、安全で快適な歩行空間の確保、歴史的町並の保全等都市景観の向上を図るため、引き続き道路上の電線類の地中化を推進した。

〈無電柱化推進計画に基づく整備状況〉

- ・第一期電線類地中化計画 (S61～H2): 7.30km
- ・第二期電線類地中化計画 (H3～H6): 7.25km
- ・第三期電線類地中化計画 (H7～H10): 17.51km
- ・新電線類地中化計画 (H11～H15): 22.18km
- ・無電柱化推進計画 (H16～H20): 13.14km
- ・第二期無電柱化推進計画 (H21～H25): 36.34km

※ 第二無電柱化推進計画の36.34kmについては整備予定延長

〈H22年度県施工〉

- ・(主) 岐阜関ヶ原線 岐阜市徹明通

## ■中山道統一デザイン案内標識設置の促進 〈再掲〉

## ■美しいひだ・みの景観づくりの推進

地域の自然や歴史と調和した景観の保全を図るため、市町村の景観行政団体への移行、景観計画の策定を支援するとともに、景観シンポジウムの開催や屋外広告物対策を推進した。

○県内景観行政団体: 15団体、景観計画: 11団体が策定(平成23年3月末現在)

○平成22年度景観シンポジウム

- ・日時: 平成22年11月19日(金)
- ・場所: シティホテル美濃加茂(美濃加茂市)
- ・内容: 基調講演「環境価値を上げる景観まちづくり」

パネルディスカッションテーマ「生活と自然・歴史が調和する景観づくり」

### ○屋外広告物対策の推進

9月10日の「屋外広告の日」にあわせて県下全市町村において一斉に違反広告物の簡易除却及び街頭是正指導を実施。平成22年度は、この他に、第30回全国豊かな海づくり大会にあわせ6月1日の「景観の日」にも県下一斉簡易除却を実施した。

(平成22年度除却件数：1,421件)



景観シンポジウム パネルディスカッション

### ■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等への支援

国が選定した重要伝統的建造物群保存地区5地区について、当該市村の保存事業に関し指導助言を行うとともに、修理・修景などの保存修理事業に対して補助を実施した。

<重要伝統的建造物群保存地区>

- ・恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区
- ・高山市三町伝統的建造物群地区
- ・高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区
- ・美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区
- ・白川村荻町伝統的建造物群保存地区



## 6 「ふるさとの誇り」づくりプロジェクト

### ■「第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～」の開催

平成22年6月13日に、天皇皇后両陛下をお迎えし「第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～」を関市において式典行事及び放流・歓迎行事を開催した。

本大会は、河川で開催される初めての大会として、「清流が つなぐ未来の 海づくり」をテーマに、森・川・海とつながる上下流連携による水環境・自然環境の保全の重要性について、未来を担う子どもたちが主役となって全国に向けアピールした。

今後は、この大会の開催理念を後世に継承するため、県民総参加の「清流の国ぎふ」づくりを一層推進していくこととする。



### ■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会県民運動（ミナモ運動）の展開

両大会の開催気運を盛り上げ、全国から訪れる多くの人々を温かくお迎えし、思い出に残る大会とするため、平成21年度4月に発表した「ミナモ運動推進計画」に基づき、3つの分野で6つの運動を掲げ、両大会の県民運動「ミナモ運動」として展開する。

- ・ ミナモ運動に自主的に取り組み多くの住民への普及、浸透を図っている個人・団体を「ミナモ運動地域推進リーダー」として表彰
- ・ 聴覚障がい者を手話や要約筆記で支援いただく情報支援ボランティア、開・閉会式や競技会で受付や美化活動等の支援をいただく運営ボランティアの研修の実施
- ・ 県民運動を分かりやすく解説し、参加に必要な情報を掲載したガイドブックを改訂
- ・ おもてなし活動、花かざり活動、環境美化活動等を大会ホームページで紹介し、取組を促進

### ■清流環境教育の推進

次代を担う子どもたちがふるさとの環境について関心を持ち、理解を深め、行動につなげていけるよう、「水の探求」を重点テーマとした「こども環境博士コンクール」の開催、

学校に対する森・川・海的环境学習コーディネーターの派遣、地域特性を生かした「ぎふ清流環境塾」の開催など、環境教育の充実を図った。

○こども環境博士コンクール

小中学生を対象に、夏休み期間中に行う環境に関する自主研究を募集し認定するコンクールを実施した。全37作品の応募があり、11名の小中学生を「こども環境博士」に認定した。

○森・川・海的环境学習コーディネーター派遣

環境学習の専門家を希望する小中学校へ派遣し、体験学習の進め方や単元指導計画についてアドバイス等を行った。平成22年度は県下9小中学校に対し、計17回派遣した。

○ぎふ清流環境塾

県内の圏域毎に、小中学校の児童生徒やその保護者等を対象とした環境塾を、毎月第2土曜日の「県民環境の日」を中心に計36回開催した。

■一万人県民による河川調査

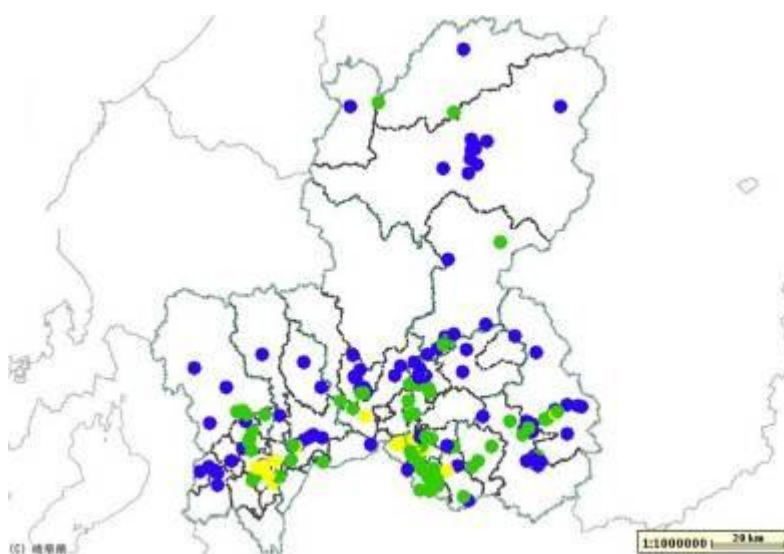
各自がもつ「感覚」を用いて身近な河川や水辺の様子について、においやゴミの量など6つの項目を調べ、それらの状態を評価し、報告していただくよう県民に広く呼び掛けた。

自分たちでできる調査方法で地域の水辺を調べ評価することで、身近な水環境を見つめ直すきっかけとなることを期待するもの。調査結果はGISマップにしてホームページに掲載した。

平成22年度実績

団体数	のべ人数	調査河川数	地点数	のべ地点数
83	5690	86	187	289

- 大変きれい
- きれい
- 少しきたない
- 大変きたない



## ■社会教育文化施設における企画展示

ふるさとへの誇りと愛情を醸成するために、博物館、美術館において、岐阜県ゆかりのテーマによる企画展示を実施した。

### ○博物館

- ・博物館でお宝“みいーつけた” (4/10～5/16)
- ・川と海を旅する魚たち (5/29～7/19)
- ・川ーカワ・イイね ～流れがつくりだす自然～ (7/2～8/31)
- ・飛騨美濃発掘20年 (9/18～11/14)
- ・鉄道沿線～光と陰 (H23/3/18～4/10)

### ○美術館

- ・現代へのまなざし 没後10年 三尾公三展 (11/2～1/30)
- ・岐阜県ゆかりの作家を紹介するクロスアート展第3弾 (2/22～5/8)

## ■県立文化施設の無料開放

「岐阜～ふるさとを学ぶ日(11月3日文化の日)」に、県立文化施設を無料開放するとともに教育普及活動を展開することで「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育んだ。

- ・博物館、美術館、現代陶芸美術館、高山陣屋、ミュージアムひだ

## ■岐阜県文芸祭における「飛騨美濃じまん部門」の実施

岐阜県文芸祭に「飛騨美濃じまん部門」を設置し、ふるさと岐阜県の風景、生活、民族、伝承、歴史上の人物など、岐阜県の自慢話や岐阜県の魅力を伝える作品を募集し、顕彰を行った。

- ・応募総数142点〈飛騨美濃じまん賞10点 奨励賞5点 佳作7点〉

## ■ひだ・みの創作オペラの開催

飛騨・美濃の特性を生かした誇りの持てるふるさと作りを推進するため、県内各地に伝わる自然や歴史・昔話を題材に、地元の出演者、スタッフ、ボランティア等が一体となり創作する県民参加型のオペラを開催した。

- ・日時：平成23年2月26日(土)、27日(日)
- ・場所：富加町・タウンホールとみか
- ・内容：川霧の音

## ■美しいひだ・みの景観づくりの推進〈再掲〉

## ■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等への支援〈再掲〉

## <参考資料>

### ・ 平成22年度の飛騨・美濃じまん運動の推進に向けた検討状況

#### ■ 飛騨・美濃じまん地域会議

##### 【岐阜圏域】

第1回 日時 平成22年4月22日（木）

- 議題 ①飛騨・美濃じまん運動の展開について  
②岐阜圏域の現状と今後の観光振興の取組について

第2回 日時 平成22年11月12日（金）

- 議題 ①「じまんの原石」候補の推薦について

##### 【西濃圏域】

（西濃圏域「まちづくり」、「人づくり」連携会議）

第1回 日時 平成22年11月8日（月）

- 議題 ①西濃圏域の新たな「じまんの原石」候補の選定についてについて  
②西濃圏域の観光振興について

##### 【中濃圏域】

第1回 日時 平成22年10月27日（木）

- 議題 ①講演「街道と宿場 おもしろ話」  
＜講師：松尾 一 氏（地域史研究家、エッセイスト）＞  
…近世交通史、地域史をライフワークとする講師の講演を通じ、  
今後の宿場町や 街道沿線の振興のヒントを探る。  
②「みたけ華ずし」を通じた町おこしについて  
＜堀田 照子 氏（「みたけ華ずしの会」会長）  
③これからの宿場町振興について  
④平成22年度「じまんの原石」について

##### 【東濃圏域】

（飛騨・美濃じまん東濃推進会議）

第1回 日時 平成22年8月5日（木）

- 議題 ①岐阜の宝もの「東濃の地歌舞伎と芝居小屋」のブラッシュアップについて

②東濃圏域における観光振興について

第2回 日時 平成22年11月5日(金)

- 議題 ①明日の宝もの「中山道(細久手宿、大湫宿、大井宿、中津川宿、  
落合宿、馬籠宿)」のブラッシュアップについて  
②新たな「じまんの原石」の推薦について

**【飛騨圏域】**

第1回 日時 平成22年11月11日(木) 開催

- 議題 ①岐阜県の観光行政、飛騨地域の観光について  
②「じまんの原石」の推薦について



## ・ みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例

平成19年7月9日公布  
岐阜県条例第39号

### みんなで作ろう観光王国飛騨・美濃条例

私たちは、古くから「飛騨の国、美濃の国」と呼ばれてきたこの岐阜県を愛してやみません。

この地は、春には桜色に包まれ、夏には深い緑におおわれ、秋には森は赤や黄色に染まり、平野は黄金色に輝き、冬には白く雪化粧をするなど、自然の生みだす五色の彩りに恵まれています。

この地には、日本人の心のふるさとの原風景がいたるところにあります。

この地は、日本の東西交流の中心地として、重要な歴史の舞台になってきました。地の利をいかした独自の文化が育まれ、商いも活発に行われてきました。

そして、太平洋側と日本海側を南北に結ぶ交通網が充実する今日、飛騨・美濃は、日本の東西南北の交流の中心として、明日の舞台になろうとしています。

おりしも、団塊の世代の人々の恋しや自らの再発見を求めたふるさと回帰が進んでいます。

さあ、飛騨・美濃にとって大交流時代の幕開けです。

日本のふるさとの良さをすべて持った飛騨・美濃が、県内外の人たちに恋しを与え、心にゆとりを与えるところとして輝くときです。

観光は、単に観光産業だけではなく、製造業、農林水産業など、幅広く地域経済へ効果をもたらす、すそ野の広いものであり、みんなで大切に育てるべきものです。こうした観光による交流を広げる取組は、明日のふるさとづくりにつながります。

飛騨・美濃には、森林、河川、温泉などの素晴らしい自然、歴史、文化、産業など、日本の貴重な財産として、世界に誇れるものが満ちあふれています。

私たちは、自信を持って、各地から多くの人たちにこの地へ観光に訪れていただくため、総力をあげて、飛騨・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛騨・美濃じまん運動を進めます。そして、飛騨・美濃を、誇りの持てるふるさとへと発展させていくため、観光王国飛騨・美濃を私たちみんなで作ります。

(めざすもの)

第一条 私たちは、飛騨・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛騨・美濃じまん運動（以下「じまん運動」といいます。）に取り組むことで、観光産業を基幹産業として発展させ、もって飛騨・美濃の特性をいかした誇りの持てるふるさとをつくります。

(合い言葉)

第二条 私たちは、「知ってもらおう、見つけだそう、創りだそう ふるさとのじまん」を合い言葉に、じまん運動にみんなで行います。

(じまん運動を進めるしくみ)

- 第四条 県は、じまん運動の方向性などを検討するしくみとして飛騨・美濃の観光を考える委員会（以下「委員会」といいます。）をつくります。
- 2 県は、飛騨・美濃全体にかかわるじまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん県民会議（以下「県民会議」といいます。）をつくります。
- 3 県は、市町村などと協力して、それぞれの地域で、じまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん地域会議（以下「地域会議」といいます。）をつくります。
- 4 県民会議と地域会議は、一体となってじまん運動を進めます。

(知ってもらおうふるさとのじまん)

- 第五条 私たちは、ふるさとのじまんで県内外の人たちに知ってもらうため、あらゆる機会を利用して積極的に情報を発信します。
- 2 私たちは、豊かな風土に育まれた農林水産物、匠の技により作りだされた地場産品などを積極的に活用するとともに販売します。

(見つけだそうふるさとのじまん)

- 第六条 私たちは、ふるさとの隠れたじまんを見つけたすため、ふるさどについて学びます。
- 2 私たちは、次の時代を担う子どもたちがふるさどに誇りを持つことができるよう、学校、地域、家庭などさまざまなところでふるさと教育を進めます。

(創りだそうふるさとのじまん)

- 第七条 私たちは、ふるさとのじまんで素敵なものに育てるとともに、新しいふるさとのじまんで創りだします。
- 2 私たちは、地場産業や地域産業が活発になるよう、ふるさとの特性をいかしたブランド力のある商品の開発に取り組みます。

(おもてなしの心)

- 第八条 私たちは、「いい旅 ふた旅 ぎふの旅」をキャッチフレーズに、飛騨・美濃に一人でも多くのお客様に何度でもお越しいただき、楽しんでいただくため、一人一人がおもてなしの心でお客様をお迎えます。

(美しい自然を守る観光)

- 第九条 私たちは、豊かで美しい自然を守るとともに、自然を観察したり体験しながらそのしくみを学び、大切に自然観光を積極的に進めます。

(ふるさとの文化にふれる観光)

- 第十条 私たちは、古いまちなみや素晴らしいふるさとの文化などを大切に、後世に伝えるとともに、お客様にこの文化にふれていただける観光を積極的に進めます。

(お客様にやさしいまちづくり)

第十四条 県は、市町村などと協力して、バリアフリーのやさしいまちづくりを進めるなど、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、お客様に楽しくすごしていただけるよう心がけます。

2 私たちは、観光施設のトイレをきれいにするなど、お客様に気持ちよく観光をしていただけるよう心がけます。

(飛騨・美濃じまんの日)

第十五条 県は、8月21日を飛騨・美濃じまんの日とします。

(飛騨・美濃じまん運動実施計画)

第十六条 県は、じまん運動を計画的に進めるため、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めます。

2 県は、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めるときや変更するとき、委員会と県民会議の意見をききます。

(飛騨・美濃じまん白書)

第十七条 県は、毎年度、じまん運動の成果を白書としてまとめ、評価や検証をし、次の運動につなげていきます。

(その他)

第十八条 この条例に定めることのほか、必要なことについては、知事が定めます。

#### 附 則

1 この条例は、平成十九年十月一日から施行します。

2 岐阜県観光審議会設置条例(昭和四十二年岐阜県条例第三十八号)は、廃止します。

## 平成23年度版 飛騨・美濃じまん白書

～平成22年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について～

岐阜県 観光交流推進局

平成23年12月